

第57回全道 造形教育研究 大会釧路大会



■釧路大会テーマ

「できた!」「いいね!」の
喜びが息づく時間を求めて

■釧路大会研究主題

つくる喜び・感動する

心をつなげていく造形教育

会期:平成19年7月26日(木)

会場:釧路市立芦野小学校

大会集録

北海道造形教育連盟

全道造形教育研究大会釧路大会実行委員会

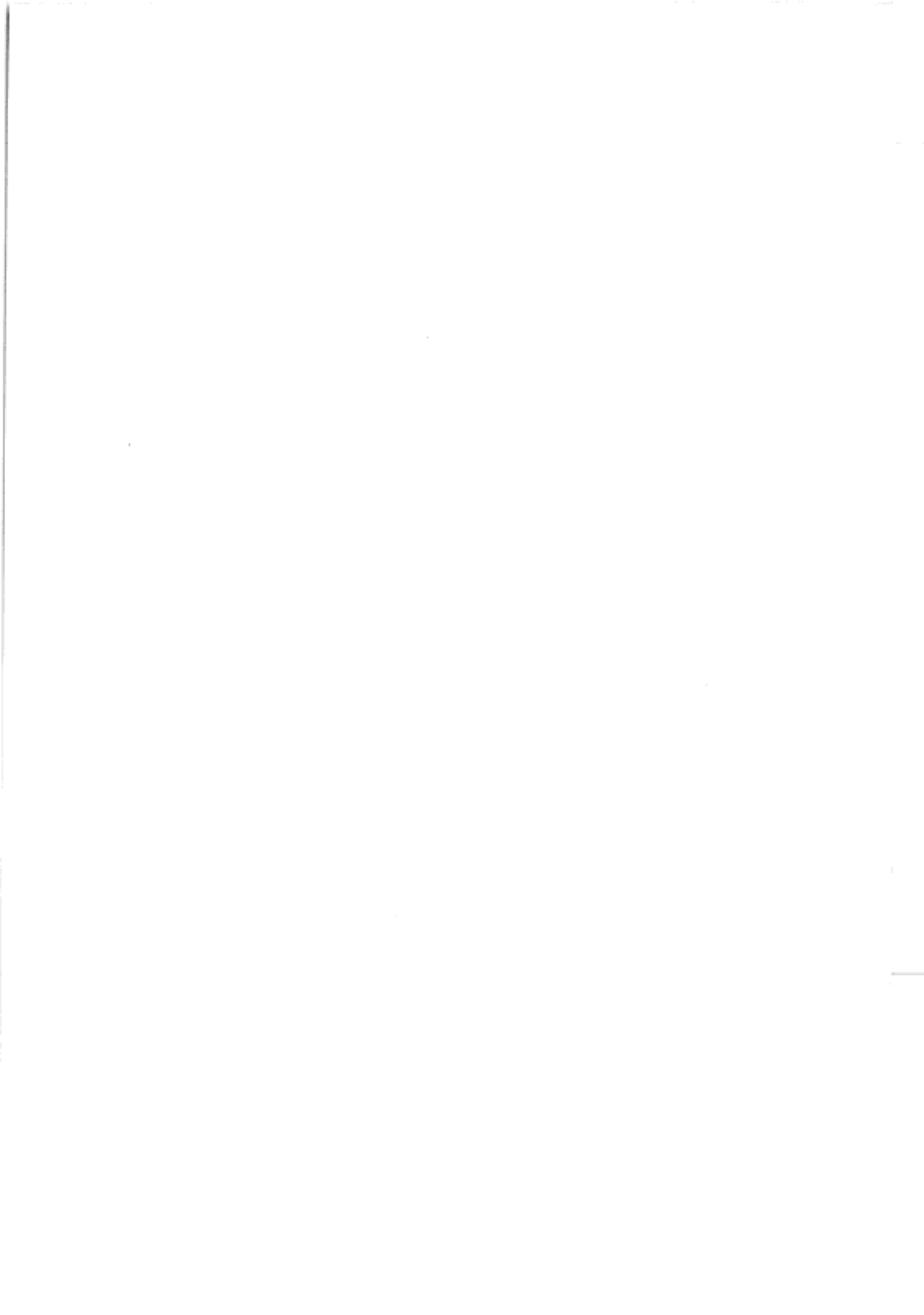


第57回全道造形教育研究大会釧路大会 大会集録

「できた!」「いいね!」の
喜びが息づく時間を求めて

◆主催 北海道造形教育連盟
全道造形教育研究大会釧路大会実行委員会

◆後援 北海道教育委員会
釧路市教育委員会
釧路市私立幼稚園連合会
釧路市小中学校校長会
北海道高等学校長協会釧路支部
釧路市特別支援学級設置学校長協会



研究収録発刊によせて

第57回全道造形教育研究大会 釧路大会

実行委員長 宝 輪 勝 己

日増しに寒さが加わってきましたが、今、あの暑かった夏、7月26日に開催された第57回全道造形研究大会釧路大会を思い起こしております。

○ 喜びが息づく時間を求めて

研究の概要のなかでも述べさせていただきましたが、自分の「思い」や「願い」が形になり、それが認められるとき、子どもたちは喜びを感じ、この経験を繰り返していくことが満足感や達成感という「精神的な豊かさ」につながっていくこと。

図工・美術の時間は、学校生活のなかで自分の「思い」や「願い」を形にする喜び、それを他者から認められるという喜びを直接体験することができる数少ない時間のひとつであること。

それ故に私たちは多くの子どもたちが「できた!」「いいね!」という声を上げたり、思いを持ったりすることができる題材や活動を考え、求め、蓄積していかなければならない。

このような考えから 大会テーマを『「できた!」「いいね!」の喜びが息づく時間を求めて』と設定させていただきました。

研究主題に「つくる喜び・感動する心をつなげていく造形教育」を設定し、つくる喜びと感動する心のつながりについても研究を進めてまいりました。

○ 授業の中で子どもたちと喜びを共に

「できた」と笑顔で喜ぶ子どもと「いいね」と共感し合う子どもたちと教師。この関わりのなかでつながる心も大切にしていきたいと考え、なるべく多くの授業実践を積み重ねてまいりました。当日の公開授業もその事を大切に臨みましたが、授業者のなかには、図工が苦手という教師もおりますし、実践の手だてでもまだ課題があるところもありましたが、思いは熱く大会に臨みました。

その中で、各教室から子どもたちの真剣な顔や喜びに溢れた顔をたくさん見つけることができ嬉しく思いました。

また、授業検討部会、課題別分科会で最後まで熱心にご討議いただき感謝申し上げます。

たくさんのご意見をいただくなかで 釧路大会の「研究のまとめ」やこれからの研究の進め方に生かしてまいりたいと思います。

大会が終わり、若い先生が「たくさん言われましたが授業をさせていただいて良かったです」と心を込めて話してくれました。

開催地の釧路にとっても 意義ある大会になりました。

○ 全道の造形教育の皆さんに感謝

本大会の開催に際しまして、授業を公開いただいた市内、管内の幼稚園、小学校、中学校、そして高校の児童生徒・教職員・保護者の皆様に深く感謝いたします。

作品提供や有形、無形のご支援とご協力をいただいた北海道教育委員会、釧路市教育委員会、釧路市私立幼稚園連合会、釧路市小中学校校長会、北海道高等学校校長協会釧路支部、釧路市特別支援学級設置学校長協会に深く感謝申し上げます。

最後に温かく見守ってくださった全道の造形の先生方に本当に感謝、感謝の言葉で一杯です。

目 次

釧路大会実行委員長挨拶	1
釧路大会研究主題・大会日程	3
大会寸描	4
研究概要	6
分科会一覧	16
授業本時案（当日提案分）	19
分科会討議内容	31
編集後記	62



《釧路大会シンボルマーク》

デザイン：釧路市立美原中学校 山中香於理さん（3年）

「釧路のイメージは湿原と夕日と丹頂なのでそれを合体させました。丹頂は折り紙の鶴にしてみました。」

文字デザイン：釧路北陽高校 磯田奈央さん（2年）

大会日程

第57回 全道造形教育研究大会釧路大会

1. 研究主題

大会主題（北海道造形教育連盟研究主題）

出会いと対話から自己創造感が生まれる造形教育

釧路大会研究テーマ

「できた！」「いいね！」の喜びが息づく時間を求めて

釧路大会研究主題

つくる喜び・感動する心をつなげていく造形教育

2. 日 程

平成19年7月26日（木）

○受付・公開授業・開会式・全体会・授業検討1・授業検討2・課題別分科会／ネットワーク会議

○レセプション・閉会式（釧路プリンスホテル）

8:30 9:00 10:40 11:40 12:30 13:30 14:30 16:00 18:00 20:00

受付	授業公開	開会式 全体会	授業検討1	昼食	授業検討2	課題別分科会	移動	レセプション
						ネットワーク部会		閉会式

大会寸描



会場校入り口



受付



開会式 実行委員長挨拶



開会式



分科会討議



ネットワーク部会



作品展示



授業風景



授業風景



授業風景



授業風景



授業風景

〔北海道造形教育連盟研究主題〕

『出会いと対話から自己創造感が生まれる造形教育』

釧路大会 2007.7.26

北海道造形連盟研究部長 川島正夫

Ⅰ. 造形教育における人づくりを起点とした大会として

第56回全道造形教育研究大会／札幌大会、終了後の大会収録に、次のようなことを述べさせていただきました。

大会を終えて一番に感じることは、幼稚園から高等学校までを網羅した本連盟の大会の価値の素晴らしさです。今後は、大学教育や特別支援教育などとも連携することにより、「人の発達と造形教育のあり方」～造形教育における人づくり～に、より深く踏み込んでいきたいと考えています。また、他教科や社会（地域）、人や文化などとのつながりを広げていくことで造形教育の価値や意義をより強く発信していきたいと考えています。

釧路大会の企画書見て、この方向性を受けてくださっていることに力強さを感じました。また、今回の大会は、幼稚園から高校までの授業公開が企画されています。全校種にわたって授業公開を実現するまでの釧路造形連盟のご尽力に敬意を表します。

さて、今回の大会は、

【大会開催の背景】

<釧路地方の現状> 専門教師の激減、「何をどう教えてよいか分からない」教師の切実な声
<目の前の子どもたち> もっと「できた」と自己実現の喜び、「いいね」と共感し合う喜びを

【だからこそ】

「つくる喜び」、「感動する心」をつなげていく造形教育を！

【そのために】

一貫した系統性もったカリキュラム「くしろスタイル」を！

と考えられます。

この釧路の考え方は、北造連研究部の考える、心躍る「もの」や「こと」、「ひと」との出会い、造形的なやりとりや対話を通して自己実現や自己創造感につながるものと考えられます。

「できた」や「いいね」が、子どもの数だけ生まれ、新しい意味や価値を見つけ出す、新しい自分に気付くという人づくりに向かうものと考えたいと思います。そして、造形教育でめざすべき調和のとれた人間形成につながるものであってほしいと強く願います。

そのためには、春の地区委員総会でも述べました「習得」、「活用」、「探究」という視点の中の「活用」の部分を中心に子どもの姿に学んでいきたいと思っています。そこには、一人一人のよさの発揮から「できた！」や、「いいね！」という感受や共感が生まれると思います。子供が自らのよさをいかに活用し、思いの実現に向かうかを学んでいきたいと思っています。

また、特別支援学級の実践紹介が、造形教育の「ひらかれた姿」の表れの一つとして提案されることを期待しております。

「くしろスタイル」という9年間にわたるカリキュラムの提案が、造形教育に携わる多くの方々に自身と方向性を与えてくれることを期待しています。

II. 連盟の今までの財産を受け継いだ大会として

今回の釧路大会は、連盟のこれまで積み重ねてきた財産を生かして開催されることに心強さを感じます。具体的には以下の点が上げられます。

- 幼稚園から高校までの授業公開 → 造形教育における人づくりの提案
- 特別支援教育のVTR公開 → ひらかれた造形教育のあり方の提案
- 階段式授業公開 → 限られた時間でより多くの授業参観が可能に
- 校種別分科会、課題別分科会の設定 → 子どもの発達、これからの造形教育のあり方について学ぶ場として

III. 最後に

釧路の方々、道研究部の基本的な考えを受けて、それを実際の授業として具現化していただけの期待感を強くもちました。

今回の大会は、子どもが実際の造形活動を通して〈もの〉と〈ひと〉と相互にかかわり合う（対話する）ことから「新しい価値」に向かう姿が見られるもの、となることでしょう。

釧路大会のご成功を心よりお祈り申し上げます。また、釧路の実践に学ばせていただけることをとても楽しみにしています。

【北海道造形教育研究主題】

『出会いと対話から自己創造感が生まれる造形教育』

北海道造形教育連盟 札幌大会 2006. 7. 26～27

- ◆造形教育を「ひらき」、「すくすく育て」、「つくるの大好き！」な子どもを
- ◆『楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育』
- ◎「北海道の子どもの現状を捉えるためのアンケート」を起点にした研究大会
- ◎「3つの扉」から造形教育の価値や可能性の発信
～「造形のWA」による題材観、PMFとのコラボレーション
文部科学省等へ陳情書送付

北海道造形教育連盟 釧路大会 2007. 7. 26

- ◆「できた!」「いいね!」の喜びが息づく時間を求めて
- ◆『つくる喜び・感動する心をつなげていく造形教育』
- ◎「くしろスタイル」による小学校から中学校までのカリキュラムの提案
- ◎幼稚園から高校、特別支援学級を含めた授業公開から図工・美術のあり方の提案

豊かな人間づくりをもとにして、
造形教育の価値や可能性の発信

2008年

石狩・北広島大会へ

大会テーマ 「できた!」「いいね!」の喜びが息づく時間を求めて

研究主題 つくる喜び・感動する心をつなげていく造形教育

中島 健朗

「できた!」「いいね!」
の喜びが息づく時間

テレビ画面で活躍するヒーローと全く同じ形をしたフィギュア、まるで現実であるかのように夢の世界をあらわすCGなど、子ども達を取り巻く環境は、簡単に「夢の世界」を手に行うことができる「物質的な豊かさ」にあふれている。

このような環境の中でも、子ども達は、白い紙に、様々な色を使って「好きなもの」を描き、折ったりちぎったりして色々な形をつくる。色々な大きさの箱を組み合わせてロボットをつくったりもする。つまり、子ども達にとって、自分自身の手で「思いつくままに」つくることは、楽しいことなのである。そして、夢中になって取り組んだ後、「できた!」と大満足の笑顔を見せる。そこで、周囲の友達などから「いいね!」「素敵だね!」という声がかかると、その笑顔がもっと輝くのである。

自分の「思い」や「願い」が形になり、それが認められる時、子ども達は喜びを感じ、この経験を繰り返していくことが満足感や達成感という「精神的な豊かさ」につながっていく。

このような時間と経験を積み重ねていくことが、子ども達を取り巻く「物質的な豊かさ」と子ども達に内在する「精神的な豊かさ」のバランスを整え、心豊かな子ども達を育てていくのではないだろうか。

図工・美術の時間は、学校生活の中で自分の「思い」や「願い」を形にする喜び、それを他者から認められるという喜びを直接体験することができる数少ない時間のひとつである。

それ故に私たちは多くの子ども達が「できた!」「いいね!」という声を上げたり、思いを持ったりすることができる題材や活動を考え、求め、蓄積していかなければならない。

このような考えから、私たちは、第57回全道造形教育研究会・釧路大会の大会テーマを〔「できた!」「いいね!」の喜びが息づく時間を求めて〕と設定した。

子ども達は「美しさ」に出会うことで心を動かされる。その「感動」を原動力として自分自身で何かをつくり出し「つくる喜び」を味わう。

大会テーマ

「できた!」「いいね!」
の喜びが息づく時間を求
めて



つくる喜び・感動する心
をつなげていくためには

そして、何かをつくりたいという欲求から夢中になって取り組み、「つくる喜び」を味わい、自分自身の満足感や達成感と共に他からの評価に新たな「感動」をおぼえる。

学習指導要領では「自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力」や「何に価値を見だし、どのように生きるか」を大切に活動を進めていくことが必要だと述べている。

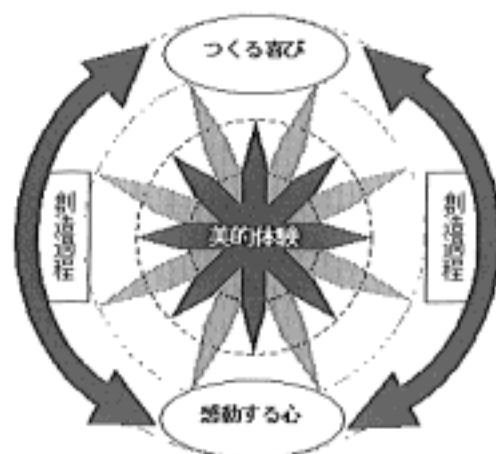


図1 呼吸のモデル

これらは、図工・美術の活動の中で、子ども達が「美しさ」に出会い、それに直接かかわっていくことで繰り返される五感と心の動きによって育まれていく。つまり、「つくる喜び」と「感動する心」は、まるで呼吸のように無意識に循環しながら、子ども達の中で高まっていくものなのである。(図1参照)

そして、私たちは、この循環を一過性のものでなく、すべての子ども達が、幼児期から青年期まで続く造形教育の中で経験できるように、また、そのつながりを一層深めたり、強めたりするには何が必要かを求めていきたいと考えた。

そこで、平成18年度から本研究会の研究主題を「つくる喜び・感動する心をつなげていく造形教育」と設定し、授業実践、研究交流会、実技研修会などを通して研究を続けてきた。

その過程で、前述の呼吸のように循環する「つくる喜び」と「感動する心」の流れを一層円滑にさせるためには、指導内容の精選と充実並びに一人一人の子どもの考えや心の動きの「みとり」の充実が必要だということがわかった。つまり、他教科でも求められている「指導と評価の一体化」を、一題材から学年の計画、そして図工・美術が必修教科である義務教育のカリキュラムまで広げて考える必要性を感じた。そこで、「指導と評価の一体化」を以下のような視点をもって研究を進めていきたいと考えている。

呼吸のように循環する「つくる喜び」と「感動する心」

研究主題
つくる喜び・感動する心をつなげていく造形教育

視点I：「くしろスタイル」

幼稚園から小学校、中学校、高校に至るそれぞれの成長段階で、子ども達が活動する内容には必ず意味が存在する。

しかし、図工・美術では、他教科と比較して「教師が何をすべきか」が教師の裁量に任される部分が多く、指導内容が曖昧になる場合が多い。

また、釧路地方の図工・美術を取り巻く現状を鑑みたとき、中学校では、釧路市内だけでなく周辺地域において、図工・美術の専門教師が激減していること。小学校教員からは「なにをどう教えて良いのかわからない。」や「自分が苦手だから教えられない。」等の切実な声を

図工・美術を取り巻く現状は

聞く機会が少なくないという現状がある。

「くしろスタイル」とは

このような現状を解決するために、図工・美術の学習を進める上で基本的な考え方や指導内容を具体的に提示していく必要があると考えた。

そこで、私たちは授業実践を中心に、それらを明確にしていく作業を続けてきた。そして、これを基に図工・美術が必修である小学校～中学校9年間の基本的なカリキュラムを作成した。それが「くしろスタイル」であり、左に示す図2が、その一例である。

ここには①9年間の単元配当②各題材の題材名及び学習目標、主な学習活動の内容、4観点の評価規準を明記した。

このように、小学校1年生から中学校3年生までの9年間でどんな素材や技法、道具などをどのような順番で提示し、学年を追うごとにどのように深めていくか、そして、教師は何を指導しなければならないのか明確にすることで、図工、美術の活動に一貫した系統性を持たせることができると考えている。

【第5学年 図工(工作)】 (1学期)		題材名及び目標			
よく見てみると(1時間) 身のまわりにあるある不思議な見方を するものを見つける、その面白さを誰かに、なぜ不思議な見方をするのかを伝える、 1ローリーからこれ(4時間) つくりたいものに合わせて、使わないレザンや紙下などあるための等などの材料を準備、物を図形粘土に ひたしたり、色を混ぜたり、厚紙、ダンボールなど他の材料と組み合わせながらつくりたいものをつくるこ とができる。					
主な学習活動	関心・意欲・態度	基礎・技能の習得	表現・創造力	知識的・技能的	態度
図形粘土の作品など を見て、その面白 さや不思議な見方 に感心するのを表 現し合う。 不思議な見方を するものを探し たり、つくりたい ものをつくるこ とができる。	A図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	B図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	C図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	D図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	E図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】
つくりたいものに 合わせて、使わな いレザンや紙下 などあるための 等などの材料を 準備。(6時間)	A図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	B図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	C図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	D図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	E図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】
物を図形粘土に ひたしたり、色を 混ぜたり、厚紙、 ダンボールなど 他の材料と組み 合わせながらつ くりたいもの をつくること ができる。	A図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	B図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	C図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	D図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	E図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】
できたら発表を 中心に発表し たい、楽しい 発表をしよう。 (1時間)	A図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	B図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	C図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	D図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】	E図形粘土の面白 さや不思議な見 方を表すものを つくって伝える。 【観察・発表】

図2：くしろスタイル(5年生)

くしろスタイルを使用した学習では

また、「くしろスタイル」を制作する過程や現在も継続している検証の過程では、共通の題材を複数の教師が複数の学校・学級で実施し、実践を交流することができるため、題材の研究を共同で行えるメリットがあることがわかっている。

「くしろスタイル」を基本に、教師が子ども達に「どんな素材を与え、どんな支援をし、どんな感動を与えるか」を考えていく事が授業づくりの大切なポイントになる。それを基本に、子けることになり、「つくる喜び」と「感動する心」をつなげていくと考えている。

本研究会では、このような「くしろスタイル」を基本とした研究授業と授業実践を基にした提言を中心に展開していきたい。



本研究会では

視点Ⅱ：学習活動を勧めていくための3つのポイント

評価規準の四つの観点

「くしろスタイル」では、各題材の評価規準を、それぞれの活動であらわれる子ども達の姿を基本に、関心・意欲・態度、発想、構想の能力、創造的な技能、鑑賞の4観点に設定している。これらは、図工・美術の学力としてとらえることのできる子ども達の学習活動の重点であり、教師が指導し、支援していくための重要なポイントである。

3つのポイント

私たちはこの中から、**発想、構想の能力、創造的な技能、鑑賞の3観点**を各活動時間の学習の重点として考えている。以下がその概要である。

○発想・構想の能力～「かんがえる・くふうする」

題材をもとに「思い」や「願い」を表現するとき、子ども達は、どうやって表そうかと「かんがえる」。そして、素材や表現方法を選び、実際に活動しながら、よりよい表現のために「くふうする」。これは一回きりのことではなく、活動のはじめから終わりまで、子どもの内面で繰り返し行われている。それを教師がみとり、支援していくことで、それらはより深まり、子ども達の表現は高まっていく。

○創造的な技能～「かく・つくる」

子ども達の思いや願いなどの心の動きやイメージの広がりなど心の学力＝みえない学力を作品や活動＝みえる学力として表出させることに大きな影響を及ぼすものの一つが「創造的な技能＝かく・つくる」力である。それを伸ばしていくためには、教師が題材や素材などに対する道具の使い方、表現技法を正しく理解し、段階的で継続的な指導をすることが必要になる。

○鑑賞～「みる・かんじる」

みることとつくることが循環する中で「かんじるころ」が生まれ、それによってイメージ化されたものが有形化されていく。つまり、美の価値と出会う第一歩が「みる」ことであり、美術は見ることから始まり、見てかんじ、見て知るということになる。

また、心理的、感情的、精神的などの自己の内面的な心を「かんじる」と考えている。

これらは図工・美術の学習活動の中では普遍のものである。しかし、実際の子どもの活動内容や教師の支援を考えた場合、各活動時間において軽重があらわれる。私たちは実践を通して、どの段階でどのポイントに最も重点を置くかを明確にし、子ども達が学ぶべきポイント及び教師が重点的に支援する内容を、一時間に一つの観点として設定した。

これをふまえて学習活動を進めることで、「子ども達はその時間でやるべき事」と「教師が重点的にみとり、評価し、支援する事」を具体化することができた。

関心・意欲・態度は

関心・意欲・態度に関しては、①各活動時間ごとに変化をみとることができる。②上記のポイントを教師が支援していくことで子ども達の満足感や達成感を充たし、活動に対する意欲さらに高めていくことができる。という2点から、ほぼ全ての段階に設定している。

本研究会では、それぞれのポイントを重点化した公開授業の中で、「何をすべきか」を明確に意識して活動を行う子どもの姿やそれを見とり支援に生かしていく教師の姿をご覧いただきたいと考えている。

視点Ⅲでは、子ども達の活動から、これら3つのポイントをどのように見とり、支援に生かしていくかを述べていきたい。

視点Ⅲ：ポイントを見とり、支援していくためには…

活動中の子ども達の
心の変化

子ども達が、活動の中で浮かべる様々な表情。素材や題材に出会い、「どんなふうにしようかな」とワクワクしながら自分の活動やつくりたいものを考える姿。うまくいったところに満足し、次も同じくできるよう確認する姿。失敗したところをよく観察して、次はうまくいくように注意して活動する姿。自分の表現しやすい素材や道具を発見する姿。

「つくる喜び」と
「感動する心」が潜む
「ふりかえり」



これは、活動における「ふりかえり」の姿であり、そこには「つくる喜び」と「感動する心」のサイクルが潜んでいる。この「ふりかえり」によって、子ども達は自分なりに実感したり、納得したりし、それを生かしながら主体的に表現していくのである。

素晴らしい「ふりかえり」
を生かしていくためには

しかし、子ども達の活動の様子を観察していると、活動の最中にアイデアが浮かんだ時には、すぐに実行することができるが、何日かおいた次の活動まで持続させることは難しいようである。また、一単位の活動時間の終了時に「今度はこうするんだ！」と思いついたことを記録しないために忘れてしまう等、活動の中からあらわれる素晴らしい「ふりかえり」を活動に十分生かすことができていない現状があった。

私たちも、観察や対話、活動や作品を見ることなどで「ふりかえり」を把握しようとしてきたが、全ての子どもの思いを含む一挙手一投足を把握することは不可能である。

そこで、「ふりかえり」を子ども達と教師がお互いに把握し理解することができ、次の活動に生かしていく方法の一つとして、ワークシートやポートフォリオの活用を選択した。以下は、小学校と中学校における活用の方法である。

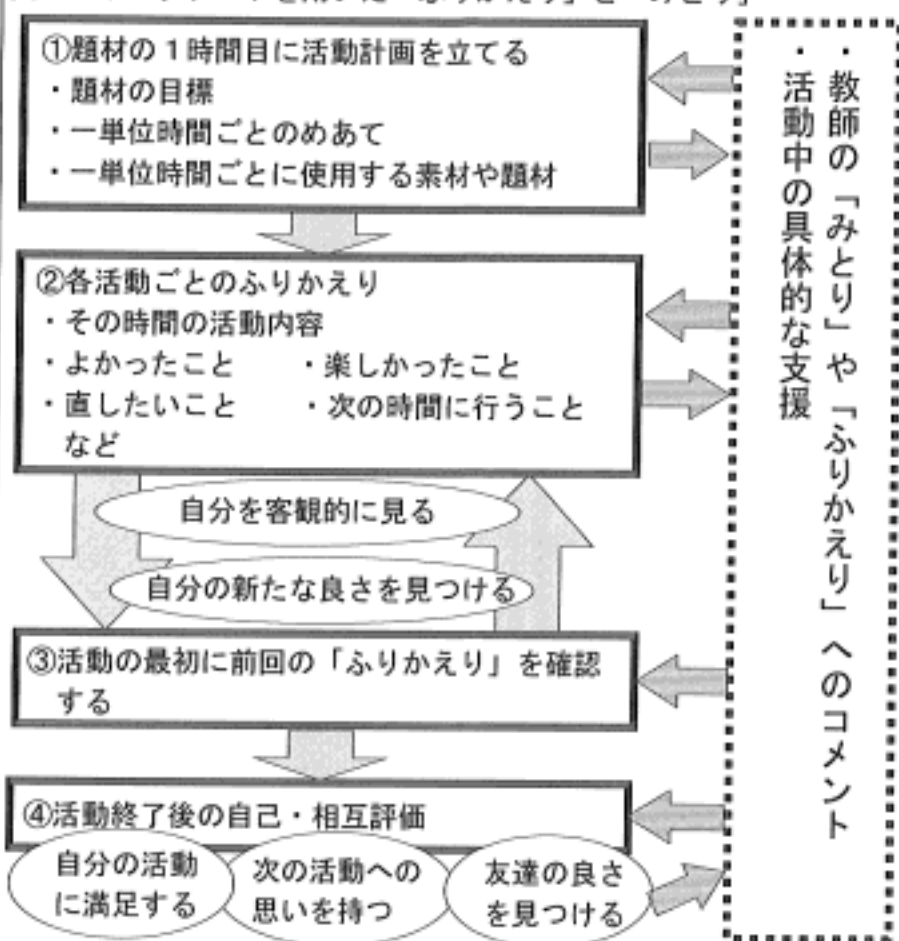
小学校では

小学校では、児童の「ふりかえり」を学習カードやワークシートを用いて記録している。低学年から高学年にかけて、ワークシートの形を変化させながら、繰り返し行うことで、児童は自己評価の視点を持ち、その精度を高めていくことができ、教師は、活動の中でみとることができなかった事を把握することができた。そこには、完成した作品からは直接見ることの出来ない「かんがえる・くふうする」姿「みる・かんじる」姿などが存在していた。

以下は、学習カードやワークシートを用いた児童の「ふりかえり」

と教師の「みとり」の図である。

図3：ワークシートを用いた「ふりかえり」と「みとり」



このように展開される学習活動の中で使用するワークシートと学習カードの具体例を以下で紹介する。

①低学年の「ふりかえりカード」



小学校低学年の児童については、短時間で一つの題材を行うことが多く、また、ワークシートへの文章による記述は難しいため、にっこりマークなどに○をつけることや☆マークに色を塗る等、自分の満足度を表現できるカードを用いている。また、簡単な言葉で「わかったこと」「楽しかったこと」「またやってみたいこと」等を書き入れる欄を設ける場合もある。

②写真を用いてふりかえる「展示用カード」

長い時間をかけて描く絵画活動では、一単位時間ごとに画面の状態が変化していく。そこで、活動が終了するごとにデジカメを用いて作品を撮影し、児童の活動の変化を記録しておく。その写真は「ふりかえり」の際に使用したり、完成と作品と比較したりすることで、児童は、自分の活動の深まりを具体的に確認することができる。さらに相互評価の際にも友達のがんばりを作品の変容から感じることができる。



③中学年のワークシート

中学年では、それぞれの活動のワークシートに「ふりかえり」を左図のような形で記録している。その日の活動の様子や感じたことを文字によって記録することで、次回の活動やそれに使用する素材や道具を確認することができ、その日に感じたことを次回の活動に確実に生かしていくことが、児童の活動をより主体的にしていく。左は、その一例である。

これは3年生のワークシートであるが、各活動時間のふりかえりの欄には、低学年で使用したカードと同様に☆に色を塗って満足度を表現する方法を残している。

④高学年のワークシート

高学年では、活動後のふりかえりに加えて、活動の導入段階での目的や意図や、素材や道具についても簡単な計画を立て左図のように記録している。ここで紹介しているものは6年生の卒業制作で使用するものであるが、展示する環境や作品を鑑賞する他学年にも配慮した制作を意識できるようにしている。

中学校では

中学校では、生徒をみとる具体的な手立てのひとつとしてポートフォリオの活用を考えている。その理由の一つは、生徒の活動の過程を言葉や数値として記録に残すのは難しいということにある。以下はそこで使用するワークシートの一例である

図4：中学校で使用するワークシートの例

ワークシートを使った
ポートフォリオの活用

ポートフォリオを活用することで、生徒自身が活動の過程における多様な思考の流れを多面的に情報化し、継続的にフィードバックすることによって、「次に何をすべきか」「どうすべきか」という課題意識を持つことができる。さらに、活動の過程では無意識に行っていて自覚できなかったことにも気づくことができる。そして、今後の活動への見通しを持つことが、関心・意欲・態度をさらに高めていくことにつながると考えている。

ワークシートを用いた
生徒は

生徒はワークシートに題材の目標を設定した後、活動の最中や自己評価場面、相互評価場面での仲間との交流の中で、技能に関わる「行動目標」や自分のイメージの拡張や表現の追求に関わる「表現目標」を継続的に設定していく。こうすることで、自分が活動計画のどの場面にいるのかを確認するとともに、課題意識を自覚し、解決への見通しを持つことができると考えている。

これは、生徒一人一人が活動の中で、自然に「つくる喜び」と「感動する心」をつないでいることを表している。

ポートフォリオを用いた
教師は

教師がポートフォリオを確認することによって、活動場面では見落とししてしまう生徒の細かな意識や目標設定や流れを把握することができ、次への支援の構想に生かすことができる。また、ポートフォリオ評価を取り入れることで、生徒の実態を細かく把握することができ、評価に反映させることができる。

「指導と評価の一体化」
を深めるために

以上のように、小中9年間で発達段階に応じた「ふりかえり」と「ポートフォリオ」を継続的に行っていくことで「指導と評価の一体化」をより深めていくことができると考えている。

これは、図工・美術の活動を、子ども達だけでなく、私たち教師にとっても楽しく、充実した時間にし、さらには、その中で生み出される「つくる喜び」と「感動する心」を一人一人のものから教室全体へ広げていくことになる。

今後の「くしろスタイル」

私たちは、学習を進める上での基本的な考え方や指導内容、評価の方法などを整理し、補足するなど、実践の中で「くしろスタイル」の加筆修正を継続して行っている。そして、「くしろスタイル」が学習を進める上での基本的な考え方として定着していくことを望んでいる。

将来的には、各地域、学校、学級で「くしろスタイル」を下敷きにした「〇〇スタイル」が構築され、その地域や子ども達の特性にあった図工・美術の学習が展開していくことを期待している。

そして、このような図工・美術の活動の中で、子ども達が「できた！」と喜び、「いいね！」と感動する声や息づかいを生み出す造形教育を求めている。



授業検討分科会

学校・分科会		題材名・学年		授業者
幼稚園		ダイナミックに〇〇! (育てた野菜の葉を使って)	【年長】	北村 香里・金行 宏江 (大楽毛よしの幼稚園)
		世界に一つだけのおみこし を作って遊ぼう	【年長】	上村 晴奈・丸山 明佳利 (愛国フレンド幼稚園)
特別支援		遠矢小・富原小での実践事例をVTR紹介 篠木 麻希 (釧路町立富原小学校)		
小学校	みる・かんじる	ならべてならべて (水彩絵の具の色水づくり)	【1年】	岩口 玉季 (釧路市立鳥取小学校)
	かく・つくる	みてみておはなし ～ふしぎなたまご～	【2年】	佐藤 幸 (釧路市立芦野小学校)
		自然からのおくりもの ～思いを寄せ合って～	【6年】	国井 彰子 (釧路市立美原小学校)
	かんがえる・ くふうする	コロコロコロガート	【4年】	佐藤 円 (釧路市立芦野小学校)
		ものくるあーと ～水墨画に挑戦～	【6年】	亀岡 萌子 (教育大附属釧路小学校)
	中学校・ 高校	みる・かんじる	日本の仏像彫刻のよさ ・西洋彫刻のよさ	【3年】
かく・つくる		抽象彫刻をつくる	【2年】	更科 結希 (釧路町立遠矢中学校)
		模様でつくる切り絵の制作	【2年 選択】	竹本 万亀 (釧路星園高等学校)
かんがえる・ くふうする		イメージの箱	【1年】	免田 まゆみ (釧路市立鳥取西中学校)

		助言者	司会・運営者	記録者
幼稚園		三枝 佑嘉 (美原つくし幼稚園長)	大嶋 春香 (釧路かすみ幼稚園)	石川洋子・佐藤由美子 (美原つくし幼稚園)
特別支援		竹本 千鶴 (釧路養護学校)	宮沢 清美 (釧路市立桜が丘小学校)	八木沼 みちる (釧路養護学校)
小学校	みる・かんじる	内山 博之 (弟子屈町立昭栄小学校)	伊藤 恵理 (釧路市立新陽小学校)	福原 知子 (釧路市立芦野小学校)
	かく・つくる	小野 三枝子 (釧路市立山花小中学校)	里見 勝之 (釧路市立昭和小学校)	氏 絵美 (釧路市立大楽毛小学校)
	かんがえる・ くふうする	森川 浩 (釧路市立美原小学校)	加藤 和江 (釧路町立遠矢小学校)	市野 真貴子 (釧路市立芦野小学校)
中学校・ 高校	みる・かんじる	滋木 弘志 (釧路武修館中学校講師)	長谷川 成佳 (釧路市立景雲中学校)	大木 敬子 (釧路市立青陵中学校)
	かく・つくる	奥田 泰朗 (釧路市立共栄小学校)	田越 智保 (釧路市立鳥取中学校)	西村 琴美 (釧路市立春採中学校)
	かんがえる・ くふうする	森 富輝 (釧路市立大楽毛中学校)	阿部 孝彦 (釧路町立富原小学校)	小泉 昭子 (釧路市立帯舞中学校)

課題別検討分科会

テーマ別分科会	提言者	助言者	司会・運営者	記録者
特別支援	篠木麻希 (釧路町立富原小学校)	竹本千鶴 (釧路養護学校)	宮沢清美 (釧路市立桜が丘小学校)	八木沼みちる (釧路養護学校)
みる・かんじる	日野道子 (浜中町立貫人小学校)	桑田正博《石狩》 (江別市立角山小中学校)	長谷川成佳 (釧路市立景雲中学校)	氏 絵美 (釧路市立大楽毛小学校)
	花輪大輔 (教育大学附属釧路中学校)	内山博之 (弟子屈町立昭栄小学校)		
かく・つくる	木田るみ子 (釧路町立富原中学校)	引地俊夫《道北》 (上富良野町立東中小学校)	田越智保 (釧路市立鳥取中学校)	川島周子 (釧路市立芦野小学校)
	上野秀実 (釧路東高等学校)	小野三枝子 (釧路市立山花小中学校)		
かんがえ・ふりかえる	岩崎愛彦 (千歳市立千歳小学校)	森實祐里《札幌》 (札幌市立三角山小学校)	加藤和江 (釧路町立遠矢小学校)	阿部孝彦 (釧路町立富原小学校)
	森川沙織 (釧路市立大楽毛中学校)	森 富輝 (釧路市立大楽毛中学校)		





授業本時案
(当日提案分)

(1) 本時の目標

- 捨てられる野菜の葉や自然の葉が何にヘンシンできるか考えてみよう。
- 工夫してダイナミックに作ってみよう。
- 完成作品にタイトルをつけよう。

(2) 本時の展開

主 な 活 動	保 育 者 の 関 わ り
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">今までの活動を振り返ってみよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> * これまでの活動を振り返る
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">今日の活動を確認して、さあ始めよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> * 今日の個々の活動内容を再確認させ、期待を持って取り組めるよう励ましの声をかける。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>〔園児の活動〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブロッコリーの葉でイカを作るよ! ・ ほおの木の葉でクジラを作るよ! ・ ミズナラの葉でわかめを作るよ! ・ ミズナラの葉でキリンの顔を作るよ! ・ 折り紙で花を折るよ! ・ ほおの葉をちぎってライオンのたてがみを作るよ! ・ メダカは、蕪の葉で作るよ! ・ 金魚は、葉をちぎって作るよ! ・ 力を合わせて作るよ! ・ 笹の葉で飛行機の翼を作るよ! ・ 虹は、笹の葉をつなげるよ! </div> <div style="width: 45%;"> <p>〔保育者の支援〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウロコを描いてみよう! ・ 波も描くといいね! ・ 体の模様もえがいてみよう! ・ 葉をちぎって形を整えてみよう ・ 川が流れているように見せるためにはどうしたらいいかな? ・ クレヨンも使えるよ! ・ 折り紙で作ってみるのもいいよ! ・ 大きな葉は、ホットボンドを使うといいよ! </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> * グループに分かれての活動のため、進み具合を常に確認し、見守る。 * ケガをしないように、材料や道具を上手に使えるよう見守る。 * 頑張りを認め、誉め、集中力ややる気がとぎれてしまわないよう声をかける。 * ヘンシンできる物はないか尋ね、考えを引き出してみる。 * できた作品をガムテープでつなげ、一つのダイナミックな作品を完成させて感動を伝える。 * グループ毎にうまくできたところや頑張ったところ、お友達の作品の良くできているところを発表させ、誉め、みんなで頑張りを認める。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">できた! みんなの絵をつなげてみよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> * 来たごっこあそびに向けても協力して作っていけるように期待を高める。
<p>うわあ! すごい! 色が綺麗! 僕が作ったのがあるよ!</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">できたね! ダイナミックなOO</div>	<ul style="list-style-type: none"> * 片付け名人は、どんなことも素早くできることを伝え、次回の造形遊びでも使う道具や材料を大切に片付けるよう促す。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月のごっこあそびでは、段ボールやカラー袋、資源物等を利用して、壁画を立体作品やゲームコーナーを作って、お客さんを楽しませようね! 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">みんなで使った道具を元の場所に戻そう</div>	

「世界に一つだけのおみこしを作って遊ぼう！！」

保育者 上村 晴奈 丸山 明佳利

(1) 本時の目標

- 季節を感じ、みんなで一緒に考えたり、作ったりする楽しさを味わながら、活動に取り組めるようにする。
- 様々な材料や道具を使って、どんな飾り付けができるを考え、表現できるようにする。
- 材料の素質や道具の使い方を知り、作ったり遊んだりできるようにする。
- 作品ができた時の達成感をみんなで味わい、喜びや嬉しさを共感し合えるようにする。

(2) 本時の展開

主 な 活 動	保育者のかかわり
<p>1. 今日の活動内容について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに出来ている「おみこし」の土台を見て、どんな風に飾るかをイメージする。 <ul style="list-style-type: none"> ・かっこいいのがいいな。 ・キラキラしたものにしよう。 ・たくさん飾りつけしよう。 ・こうしたらいいかな？ <p>2. 様々な材料の素材、道具の使い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料を目で見たり、手で触ったりしてどんな素材かを知り、どのように活用できるかを考える。 ・鉄や糊、セロハンテープなどの道具の使い道を考える。 <p>3. 制作を開始する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つのグループごとに「オリジナルおみこし」を制作する。 ・土台が出来ている「おみこし」に様々な材料や道具を使って飾りつけをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・クレヨンで絵を描く。 ・折り紙を貼り付ける。 ・様々な材料を糊やテープなどで貼り付ける。など… <p>4. 出来上がった「オリジナルおみこし」を各グループごとに見せ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここがかっこいいね。 ・色がきれいだね。 <p>5. 出来上がった「おみこし」を使って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館に移動し、グループごとに分かれ、おみこしリレーをして遊ぶ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム対抗戦で行う。 ・ルールをしっかりと理解する。(三角コーンのまわりをまわって元の場所に戻り、次のお友達と交代する。) </div>	<p>○事前に用意した、飾りのついていない「おみこし」を子ども達に見せ、今日の制作内容を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の発言を拾いながら、イメージを膨らませていくよう促す。 <p>○それぞれの材料を子ども達に掲示し、各グループごとに材料を配る。</p> <p>○道具を使う時の注意事項を伝える</p> <p>◎自分達の思ったままに飾りつけを楽しめるよう声かけする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ場所ばかりに飾りつけが集中しないように、まだ飾りつけがされていない場所を気づかせる。 ・子ども達の制作の様子を見ながら「かっこいいね」「きれいだね」など声かけをする。 <p>○各グループの「おみこし」を見て、感じたことを伝え合う。</p> <p>○リレーを行うにあたって、ルールやおみこしの持ち方などを確認してから始める</p>
<p>6. 教室に戻り、今日の活動を振り返る。</p>	<p>○今日の楽しかったこと、頑張ったことを振り返り、一日のまとめを行う。</p>

(1) 本時の目標

- 絵の具を混ぜて自分の好きな色を作ろうとしている。
- 友だちと一緒に色水を楽しみながら作っている。(造形への意欲, 関心, 態度)
- どんな風に並べたらよいか考えている。(かんがえる・くふうする)
- 水彩絵の具の特徴を知り, きれいな色水を作る。(かく・つくる)
- 好きな色水を並べたり色の変化を楽しんだりしている。(みる・かんじる)

(2) 本時の展開

主な学習活動	○教師の関り(◎評価の規準と方法)
<p>1. 今日の活動内容について知る。</p> <p>○赤, 青, 黄の3色を混ぜてつくった21色のカプセルを見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいだね。 ・色がつながっているね。 ・どうやってつくったの? ・絵の具でつくったんじゃない? ・色を混ぜたんじゃない? <p>2. 色の混ぜ方を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・筆に色を付けて水に溶かす。 ・色の調子を見ながら少しずつ混ぜる。 ・1つの筆は同じ色だけに使う。 ・使い終わった筆は, 必ず洗って雑巾で拭く。 </div> <p>3. 絵の具を混ぜていろいろな色をつくり, つくった色の調子を見ながら順番に並べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1～赤+黄色 2～黄色+青 3～青+赤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あっきれいな色になった! ・同じ色になったから, こっちに少し違う色を足そう。 ・色を比べたらこっちに置くのがいいかな? ・赤の仲間が多いから黄と青を混ぜた色を増やそう。 </div> <p>4. 色の調子を考えながら, カプセルを並べ替えて遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤の仲間ですらえよう。 ・絵になりそうだね。 ・足りない色をつくろう。 <p>5. 各グループのカプセルの並び方を鑑賞する。</p> <p>6. 今日の活動をふりかえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりカードに記入する。 	<p>○色の変化がわかりやすいようにカプセルを提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自由な発言を促し, 色のつくり方を全体で考えていけるようにする。 <p>○赤, 青, 黄の絵の具を提示し混色の仕方を伝える。</p> <p>○水彩絵の具の基本的な使い方を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗例をいくつか示し美しい色づくりへの意欲を高める。 ・各グループで使用する色は2色に限定し, 随時新しい色に交換していく。 ・必要に応じて絵の具を追加する。 <p>◎水彩絵の具の特徴を知り, きれいな色水をつくる。</p> <p style="text-align: center;">(技能～観察・発言)</p> <p>○色の変化に着目して並べられるよう促す。</p> <p>◎どんな風に並べたら楽しいかを考えている。</p> <p style="text-align: center;">(発想・構想～観察・発言)</p> <p>○各グループの活動を賞賛し, それぞれのよさを具体的に伝える。</p> <p>○すてきなところ, 工夫しているところを伝え合うよう促す。</p>

「みて、みておはなし」

指導者 佐藤 幸

(1) 本時の目標

- 登場人物をイメージに合わせて楽しく画面構成できる (かんがえる・くふうする)
- 正しく用具を扱い活動することができる (かく・つくる)

(2) 本時の展開 (5/6)

主な学習活動	○教師のかかわり ◎評価基準と方法
① 本時の活動を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○今まで別々につくってきた「たまご」「登場人物」「背景」を見ながら本時の活動に向けての意欲を喚起する。 ○活動の流れを確認し、見通しを持たせる。
② 登場人物を切り抜き、自分のイメージに合わせて画面構成をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・はさみは動かさず、紙を動かして切る。 ・はじめはおおまかに切り抜き、その後、線にそって切る。 ・お話に合わせて登場人物を背景の上で動かして遊び、貼りたい場所を決める。 ・自分の活動に合わせて活動しやすい場所を選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ある程度画面構成をし、さらに描き加えたい登場人物や背景があれば加えて画面構成をする。 ・必要な画材を選択したり場の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○紙を動かしながら切ることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・細かい部分を切り落としてしまっても後からのりで貼りつけることができることを伝える。 ・はさみの使い方について助言する。 ○個々の活動を賞賛し楽しんで活動できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物をいろいろ動かし様々な構成を考えてみるように促す。 ・友達と自由に交流しながら自分のイメージを膨らませたり、明確にしたりする。 ・背景が大きく作業しづらい場合はワークスペースや床など活動の場を選ばせる。 ・新しいアイデアを賞賛し紹介する。 ○使える画材と使用方法、場の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・クレヨン、サインペン、ゲルマーカーなどを自由に使えるように用意する。 ・画用紙は色々なサイズを用意して自分が必要なサイズを選ばせる。 ・道具の扱い、場の選択について助言する。
③ 登場人物をのりで貼り付け画面構成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・台紙を使って端まで丁寧にのりを塗る。 ・貼ったあと上から押さえてはがれないようにする。 ・背景からはみ出す場合は、のりを塗る場所を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎道具を正しく使って活動している。 (かく・つくる～観察、作品) ◎自分のイメージに合わせて、たまごや登場人物と背景を組み合わせている。 (かんがえる・くふうする～観察・作品) ◎線画材、水彩絵の具を正しく使い描いている。 (かく・つくる～観察、作品) ○のりの使い方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・のりの使い方について助言する。 ◎道具を正しく使って活動している。 (かく・つくる～観察、作品)
④ 本時の振り返りを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・わかったこと、上手かったこと、がんばったことなどを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の活動を賞賛する。 <ul style="list-style-type: none"> ・活動を振り返りカードに書かせる。

(1) 本時の目標 (6/8)

- 作り出す喜びを味わいながら、楽しんで制作することができるようにする。(関心・意欲・態度)
- 素材や道具の特性を生かして、作品を作ることができるようにする。(かく・つくる)

(2) 本時の展開

主な学習活動	○教師のかかわり (◎評価の規律と方法)
<p>1. 前時までのふり返しカードや互いの作品などを見ながら、本時の活動に見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題と制作の進め方を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><テーマ></p> <p>①水辺の生き物 ②森の生き物 ③お城の人々 ④むらの住人 ⑤音楽隊</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・道具の扱い方を確認する。 ・友達作品を見て、素材の生かし方や加工の仕方を考える。 <p>2. 素材や道具の特性を生かして、テーマに向けて自分の作りたい物を作っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画したことをもとに制作する。 ・手にした素材を見立て、発想を広げる。 ・素材に合った道具を選んで加工する。 ・効果的な接着方法を考えて、素材を組み合わせる。 ・計画したものができたら、作品を並べて見て、作り足したり、作り直したりしたいことを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、グループでアドバイスし合ったり、協力し合ったりする。 <p>3. 本時の振り返りをし、次の活動に見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふり返しカードを書く。 ・足りない素材など、次の時間に必要なものを確認する。 	<p>○課題に向けて安全にスムーズに制作できるような見通しを持てるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の制作で困ったことなどを聞き、子ども同士がアドバイスし合えるようにする。 ・素材の特性を生かして作っている友達作品や道具の使い方の良さに気づけるよう促す。 ・道具の扱い方や素材の加工の仕方について助言する。 ・制作の場を確認する。 <p>○活動の意欲を喚起しながら、素材や道具の特性を生かした制作ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品や制作の進め方の良さを賞賛する。 ・必要に応じて、児童と一緒に制作したり、素材ボックスから素材を探したりする。 ・小刀やのこぎりなどの道具の扱い方について、必要に応じて助言する。 ・計画にとらわれることなく、計画を見直しながら制作できるよう助言する。 ・素材の生かし方や道具の使い方などの参考になるヒントカードを掲示しておく。 ・一人一人の思いを大切にしながら、児童同士の学び合いも生かしていけるよう配慮する。 <p>◎素材や道具の特性を生かして、組み合わせを試したり、作りたい物を作ったりしている。</p> <p style="text-align: center;">(かく・つくる～作品や行動観察)</p> <p>◎自分の思いを生かして作り出すことを楽しんでいる。(関心・意欲・態度～行動観察)</p> <p>○本時の活動を賞賛し、次時の活動を予告する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスを受けた作品がどのように変わったか確認する場を設ける。 ・素材や道具の特性を生かして作り進めることができた作品を紹介する。 ・次時に必要な道具や素材を確認できるようにする。

「コロコロコログラート」

指導者 佐藤 円

(1) 本時の目標

- 道具や使う材料を選び、ビー玉が転がり落ちる迷路づくりに興味をもっている。(造形への関心・意欲・態度)
- 友達と楽しく遊べるような工夫を、迷路に取り入れてつくっている。(かんがえる・くふうする)

(2) 本時の展開

主な学習活動	○教師のはたらきかけ ◎評価規準と方法
<p>①デザインをもとに工夫したレールのつながり方を考え、楽しいコロコロコログラートをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に遊んでもらうことを目的とする。 ・スタートとゴールを必ずつくる。 <p>・道具の使い方(接着の工夫、カッターナイフの使い方)を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で足りなかった材料を加える。 ・友達の良いところや工夫しているところを参考にする。 <p>・自分の活動に合った場所で作業する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広いカッターマットが必要な場合は切るコーナーで活動する。 <p>・落とし穴などの仕掛けを工夫する。</p>	<p>○本時の見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロコロコログラートのめあてを確認する。 <p>○カッターナイフの使い方や接着方法を確認する。</p> <p>○友達の活動に目を向けるよう促す。</p> <p>○活動場所の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切るコーナーを紹介する。 <p>○ヒントコーナーを設置し、紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十字路 ・T字路 ・坂道 ・カーブ ・2階建て ・ボンドを用いて接着するコツ(洗濯ばさみを使用して固定する) <p>◎どのように転がると楽しいかを考え、デザインや計画を生かしてつくる。 (かんがえる・くふうする～観察・作品)</p>
<p>②ワークシートで本時のふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上手くいったところや工夫したところを記入する。 ・次回の見通しをもって、用意するものを確認する。 	<p>○ワークシートに本時のふりかえりをさせる。</p>

(1) 本時の目標

- モチーフの濃淡を工夫したり、画面の組み立て方を考えることができる (かんがえる・くふうする)
- 墨や筆の使い方の効果確かめながら描くことができる (かく・つくる)

(2) 本時の展開

主な学習活動	教師のかかわり
<p>○本時の学習内容を把握し、活動を見通した目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きい水墨画用紙にいくつかのモチーフをいれて、「ものくろあーと」をつくっていく。 ・どんなモチーフで「ものくろあーと」の世界をつくっていくかを工夫する。 <p>○前時に描いた習作を鑑賞しながら、水墨画の技法や、水墨画で表現できるものの可能性を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白描法 ・没骨法 ・三墨法 etc… ・「野菜も描けるんだ！」 ・「湯筆」をつかったら、草を表現できるかも… ・「本物を見たら、葉の形や生え方がわかった！」 <p>○「できすばふりかえりTIME」を確認し、活動に見通しを持たせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●前時の活動で試した技法や作品を児童が確認しやすいように、掲示しておく。 ●前時で学習した技法をつかって描いた参考作品を掲示しておく。 ●前時までの児童の活動を見取った上で、必要とされそうな「モチーフを描くコツ」や、「参考となる具体物」などの、「アイデア促しグッズ」を用意しておく。 ●ワークシートを配付し、本時の目標を記入できるようにする。 ●活動時間を設定し、児童が見通しを持ちながら活動できるようにする。
<p>「ものくろあーとていすと」になろう！</p>	
<p>○水墨画用半紙をつかって描く感触を味わう。</p> <p>○モチーフを組み合わせながら画面を構成し、「ものくろあーと」を制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に試した技法を違うモチーフで描いてみる ・「アイデア促しグッズ」を参考にする。 ・友だちが描いたモチーフや構成を参考にする <p>○完成した作品に自分の「印」を押して、掲示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●前時までの書道用半紙と比べ、にじみ方や筆のすべり方に違いがあることを説明する。 ●前時の習作や参考作品の活用、周囲の児童の作品、事前に用意した「アイデア促しグッズ」などからヒントを得ることなどを促しながら、個別に支援する。 「背景に〇〇をいれてみたら？」 「濃墨で輪郭を描いてみたら？」 ●針金と洗濯ばさみを用意しておき、作品を乾かしながら掲示できるようにする。 ●一枚完成させたら、納得がいくまで次の作品に取り組んでもよいことを伝える。
<p>「できすば」ふりかえりTIME！</p>	
<p>○今日の活動をふり返ったり、作品を自己評価し「できすばシート」に記入する。</p> <p>○友だちと協力しながら後片づけをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●自己評価の観点を具体的に設定し、次回の活動への意欲を喚起できるようにする。

「日本の仏像彫刻のよさ・西洋彫刻のよさ」(本時案)

指導者 杉山浩彰

(1) 本時の目標

- 西洋の彫刻と日本の仏像彫刻、それぞれが表現したかったものを考えることができる。
- それぞれの彫刻の表現的な特徴を理解したうえで、自分自身の感想を持つことができる。

(2) 本時の展開

主な学習活動	教師のかかわり【評価の視点】
<ul style="list-style-type: none"> ○前時の授業内容を振り返り、本時の授業内容を知る。 ○西洋の彫刻の名前や、像の意味などを知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを配布する。 ○初めに西洋の彫刻を鑑賞し、その後、前時に説明をした仏像彫刻と比較しながら鑑賞を進めていくことを確認する。 ○西洋の彫刻を、簡単なエピソードなどを交えながら紹介する。・サモトラのニケ(勝利の女神)・ミロのヴィーナス(愛と美の女神)・ポセイドン像(海の神)・ダビデ像(古代イスラムの王)・円盤投げ(古代オリンピックの種目)
西洋の彫刻の表現的な特徴と思われるものを書こう。	
<ul style="list-style-type: none"> ○思いついたものを、たくさん記入することができる。・裸やセクシー・マッチョ(筋肉質) など ○西洋の彫刻は、作品を通してどんなことを表現したかったのかを考え、記入することができる。・力強さや美しさ・自然な姿や人間そのもの など ○日本の仏像彫刻は、作品を通してどんなことを表現したかったのかを考え、記入することができる。仏教 期待する声・ありがたさや清らかさ・強さや恐ろしさ など 	<ul style="list-style-type: none"> ○正解や不正解はなく、自分が思いついたことを、素直に書くように促す。 【ワークシート観察・発表】 ○発表された意見から、西洋の彫刻が表現したかったことをまとめる。まとめること…・人間の理想美・人間の肉体美・自由さ 【ワークシート観察・発表】 ○西洋の彫刻が表現したかったことを踏まえながら、それと対比させるかたちで、日本の仏像彫刻が表現したかったことをまとめる。まとめること…・精神性・宗教性・神秘性 【ワークシート観察・発表】
あなたは、仏像彫刻と西洋の彫刻を比較して、どちらに心をひかれますか？	
<ul style="list-style-type: none"> ○表現したかったものを踏まえ、西洋の彫刻を日本の仏像彫刻と比較して、どちらが心をひかれるか選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級の傾向を聞き、更に意欲を高める。
一番心をひかれる像を1つ選び、選んだ理由も書こう！	
<ul style="list-style-type: none"> ○資料やワークシートから1つの像を選び、選んだ理由を書くことができる。 ○お互いの感想を発表し合い、交流を深めることができる。 ○今回の学習を通して、わかったことや感じたことを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が一番心をひかれる像に対する思いを書かせる。・新しく学んだり、今までの友達の発表などから感じたりしたことをふまえた感想になるように促す。・何名かには発表してもらうことを告げ、自分の考えに対する良い意味での緊張感を高める。【ワークシート観察】 ○自分の考えをしっかりと発表させるとともに、友達の発表もしっかり聞かせる。【発表】 ○素直な思いを書かせ、授業を振り返らせる。

※授業にかかわる引用・参考資料 「自分の心でとらえる鑑賞」 古田 洋司 編著 日本文教出版

※仏像にかかわる主な参考資料「エソテリカ事典シリーズ① 仏尊の事典」関根 俊一 編 学研「目でみる仏像[完全普及版]」田中義恭、星山晋也 著 東京美術「仏像がよくわかる本 種類、見分け方完全ガイド」瓜生中 著 PHP文庫「[図解] 仏像のすべて」花山勝友 監修 知恵の森文庫「見仏記」いとうせいこう、みうらじゅん 著 角川文庫「見仏記2」いとうせいこう、みうらじゅん 著 角川文庫 他

「抽象彫刻をつくる」

指導者 更科結希

(1) 本時の目標

- 制作の手順を理解し、手順にそって彫り進めることができる（発想・構想の能力）
- 安全な道具を扱い方を理解し、工夫しながら彫り進めることができる。（創造的な技能）

(2) 本時の展開

主な学習活動	教師のかかわり
<p>1 前時の活動を振り返る</p> <p>1) 各自のテーマの確認 2) 各自の形の確認 ※制作カード、エスキースでの振り返り</p> <p>2 本時の制作内容を確認し、目標をたてる</p> <p>1) 彫刻の手順を確認する 2) 彫る面を決定する 3) 道具の扱い方を確認する 4) 今日の目標を制作カードに記入する</p> <p>3 各自で決めた面から、手順にそって工夫しながら彫り進める</p>	<p>1 前時までの活動を確認し、どのようなテーマ・形を考え活動してきたかを振り返れるよう、制作カードへの記入、エスキースの確認を促す</p> <p>2 本時「荒彫り」の制作手順を確認し、個人の目標を立てれるよう指導する</p> <p>1) 発砲スチロールを使った模型で彫りの手順を説明する 2) 一番最初に彫る面の設定 3) 道具の安全な使い方を確認 4) 今日の目標の設定</p> <p>3 彫る面を確認させ、道具の扱い状況、石膏ブロックの乾燥状況を確認していく</p>
<p>1) 彫る面を上にして、のみと木槌でまっすぐ下に彫っていく</p> <p>2) 垂直に彫っていくためにはどのように道具を使っていくべきかを考えながら彫り進めていく</p> <p>3) 石膏が堅くて彫りにくい時は、水につける</p>	<p>1) 彫り進めていく中で、側面の下描きの線に感わされていないか確認する</p> <p>2) 真下に彫っていくための道具の使い方を説明していく</p> <p>3) Dチームに関しては、乾燥の状況を見て石膏を水につけるよう指示していく。他のチームでも必要な場合は指示</p>
<p>4 本時の学習を振り返り「制作カード」に、取り組みの中で感じたことを記入する。また、次の時間の見通しを記入する。</p>	<p>4 本時の学習を振り返り、制作カードに記入した事柄の中から、特に注意すべき点を取り上げ、説明する。また次の時間の確認をする。</p>





「模様でつくる切り絵の制作」

指導者 竹本万亀

(1) 本時の目標

- 「切る」ことに集中できる
- 切り出した線の美しさ、白黒のバランスのおもしろさを味わいながら切ることができる

(2) 本時の展開 (7/8時間)

主な学習活動	教師のかかわり
本時の内容の確認 ○前時を振り返る ○この時間の目標を意識する 	前時までを振り返ろう 完成までの時間を伝える
デザインしたものを切りはじめる ○どこから切りはじめるか考える (かんがえる・くふうする) 	サンプル制作時に伝えたことをふりかえらせる 切りづらさに気づかない生徒への声かけ
○切りやすい向きを意識する (かく・つくる) ○制作に集中する (やるきになる・むちゅうになる) 	 白い画用紙にのせてみるよう指示 光にすかしてみたりするよう声かけ
○白黒のバランスを試行錯誤し、切ってゆく (かんがえる・くふうする) ○作品の美しさを発見する (みる・かんじる) 	自分以外の作品をみて感想を言うなど交流しあえるようはたらきかける サンプル作品とも比較しながら、自分の作品の変化・良さをみつけるようはたらきかける
自己評価用紙の記入 ○本日の制作の振り返りをする ○サンプル作品との比較 (みる・かんじる)	次時の予告

(3) 評価

- ・「切る」ことに集中し、すすめることができる
- ・切り出した線の美しさ、白黒のバランスのおもしろさを味わいながらすすめることができる

(1) 本時の目標

- 自分の目標をたてて、意欲的に活動することができる。
- 色合いや形を考えて文字のイメージが広がる箱のデザインをし、工夫して形を作ったり色を塗ったりすることができる。

(2) 本時の展開

主な学習活動	教師のかかわり 【評価方法】
1. 授業の準備をすることができる。 2. 制作のポイントの確認 3. 前時までの学習内容を振り返り、今日の個人の目標を立てることができる	2. 制作の手順を確認しよう。【ワークシート確認】 (1) 箱の外側の形を切る。 (2) 箱のデザインを考え、発泡カッターで切り抜く (3) 箱の内側の材料に色をぬる (4) 箱をボンドで組み立て、必要な色を塗る (5) 文字をつり下げる (6) もようプレートを考え、塗って切ってつり下げる
<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">色合いや形を考え文字のイメージが広がるように工夫しよう</p>	
4. 制作する。 ・それぞれの進捗でポイントを確認する。 ・友達とアドバイスし合う。 6. 自己目標の反省とまとめを行い、次時での制作内容を 確認する。 授業者からの講話を聞く。	4. 制作工程を確認させ、イメージの深化を促す。 ・停滞の状況と制作のポイントに関わるアドバイス (各工程) 【観察・ワークシート】 ① 切る→ 箱と文字とのバランス、切る角度や道具の使い方を確認させる。 ② 塗る→ 文字板の透け方、全体の配色イメージを確認させる。 ③ 貼る→ 全体のバランスを確認させる。 ④ つりさげる→ 2枚の文字や模様の距離や傾きを考えさせる。 5. 机間指導で必要な声をかけ、イメージの深化をはかる。 6. 他者のアイデアや努力の紹介。 表現を広げる手がかりの紹介。 【ワークシート確認】

文字をどう包むか考えよう。(箱は小さすぎないかな?)

糊塗部分は、切り抜き系? 付け足し系?

文字がどう透けるのか考えよう。

糊み立てながらイメージを強固させよう。

プラスになる形や色をつけ足そう

2枚の文字の距離や傾きを考えよう



分科会討議内容

授業検討 「幼稚園」部会

助言者 三枝 佑嘉 司会者 大嶋 春香 記録者 佐藤 由美子 石川 洋子

保育者 北村 香里 金行 宏江 「ダイナミックにOO」

上村 晴奈 丸山 明佳利 「世界に一つだけのおみこしを作って遊ぼう」

「ダイナミックに」

1. 授業者より

- ・身の回りの植物、体験農園を通して収穫してしまった野菜の葉や捨てられてしまう葉っぱを使って、海・川・陸・空の生き物を作ってダイナミックな絵を完成させた。捨てられてしまう葉を何かに変身させ、そしてダイナミックに工夫し、作った作品に自分達で名前をつけてみようという活動ねらいを立て、本日まで取り組んできた。
- ・本園は日々背骨を立てて精神面を育てる立腰教育を軸として行っており、日本のよい文化からくる挨拶やお返事、靴を揃えることなど、家庭で忘れがちなしつけを本園で行っていくことで、明るく豊かな人間性を育てている。静・動のメリハリをつけることによってけじめや我慢する忍耐力、話を最後まで聞く集中力、意志力、最後までやり遂げる持続力を持てる子どもになるように立腰教育のねらいを立て、実践している。合わせて、視覚・聴覚を使って理解力を深めるために板書教育も行っている。
- ・本園では月ごと行事・季節に合わせて絵画制作を行っている。本園では4月に体験農園ハウスで種蒔きを行う。育てた野菜等は6月～9月ごろに収穫。収穫したものは園長先生に調理してもらい、全園児でおいしく頂く。今年は天候があまり良くなく、思うように葉っぱが育たず、この活動を行うために知り合いの農家に葉を分けていただいた。葉っぱを使った遊びでは、落ち葉拾い、ヨモギ蒸しパン作り、落ち葉を使ってこすり絵をした。絵の具を使った遊びでは、平筆、はけ、スプレーでお絵かき、色塗り、染めものを楽しんできた。これらの活動を通して色塗り、ハサミの使い方など道具の扱い方が上手になり、話を聞く力がつき細かい作業に私語をせず集中して取り組めるようになってきた。今後10月に行う予定の大型のごっこ遊びにつなげていきたい。
- ・本日の反省点はもう少し声掛けをすることによって子ども達の発想を引き出したのではないかと思ったが全職員で子ども達をバックアップしたことにより、子ども達自身の発想力がとても素晴らしく、笑顔で活動に取り組んでいてとてもよい作品が出来た。
- ・年長としての自覚をもつように4月から活動をおこなってきた。本日の活動のなかでは子ども達がのびのびと取り組んでいて、その中で絵の具を一緒に使うなど協力しあう場面が見られた。これまでハウスで一緒に野菜の観察をしてきた中で葉っぱがハートの形にみえたり、大きな葉っぱが大人の葉に見えるなど、大人とは違う視点で子どもが見ているのが印象的だった。

2. 研究協議

- ・今日の題材は葉っぱを集めるのにとても大変だった。頂いたものを乾燥させる上でカビがはえたり、生だと貼り付けるのに付かないため、生を使えないという状況から乾燥させた葉を用意するのに苦労した。4つのグループで活動したが、夏休みだったため、お休みする子どもも多く人数にばらつきがでたが、大勢の先生方のなかでしっかり活動してくれたことに感謝している。
- ・最後に部分の作品を合わせてみたときに大きな感動が味わえたのではないかと思う。先生はイメージを持って取り組んでいたが、実際の子どもの発想が楽しくて自分なりの個性、反応で取り組んでいた。最後に子ども達と一緒に喜びを分かち合えたことがよかったと思う。
- ・先生が大きな声をださなくても、子ども達がとても静かにお話を聞いていたことに驚いた。保育の方は自分で考え、想像しながら取り組む姿がとても良かった。道具がいろいろと揃っていて、ピストル風ののりが印象的だった。扱いはいつ頃だったのか。また、今日の葉っぱ以外にどんなものをくっつけるのに使っているのか知りたい。
- ・ピストル風のものはホットボンドといい、木工ボンドではつかないものに使用している。5月に子ども達におろし、扱い方を説明し、約束事をきちんと確認し、実際には6月に入ってから使い始めた。今回の葉っぱ以外ではクリスマスのリース作りで使うのに適している。くっつけるだけでなく、色のついたものを使えば、ボンドを垂らすだけで模様づくりにも使える。ボンドを落としてすぐは熱いため、やけどに注意し、少し時間をおいてからくっつけるように指導している。
- ・準備の段階で苦労したんだなと感じました。子ども達はいつもと違う環境でたくさんの中で、人がいるのを感じ

じさせないくらいにすごく一生懸命に活動する姿が印象的だった。

- ・ 子どもが生き生きといて気持ちが作品に浸透していたと思う。見た感じも出来上がりの作品もダイナミックという言葉が当てはまっていた。印象的だったのが「タコを作りたい」と言った子どもをみていて本当にタコに見えたと、陸、海、空の生き物がイメージ出来ていた。たくさん的人数で一つの作品になったことが素晴らしいと思った。
- ・ 先生の目を見て集中してお話を聞くことが上手だった。また、作業中も子ども達同士の私語・おしゃべりが少なく集中しながら活動出来ていたとおもう。
- ・ 子ども達が生き生きと自分で想像する力を蓄えながら作っている姿が印象的だった。
- ・ 朝の会の出欠確認ではしっかり先生の方を見てお返事をしていて素晴らしいなど思った。想像して作ることが出来ない子どもが増えてきている時代だが、どの子も自分たちで想像し自由に取り組み姿が印象的。
- ・ 自然の葉っぱ等を使って太陽や生き物を工夫して作り上げる事や、グループで一つの作品を作り、更にそれが組み合わせられて一つの大きな作品になっていく展開が素晴らしいと思った。
- ・ 野菜の葉っぱや観察日記など授業風景の他に見る物も沢山あり、園でも展示しているのか気になった。子ども達同士で協力してやろうとする雰囲気がとても素敵だと思った。道具が沢山並んでるなかで、絵の具やクレヨンなどを塗ることも選んで使い分けていて、どこで何を使っていくのか子ども自身が意識して使っていることがとても驚いたとともに感動した。
- ・ 幼稚園の保育は初めて見るが道具の用意などとてもキメこまやかな配慮が印象的だった。野菜づくりを中心に生活・学習につなげていっている。つまり、育てる・食べる・捨てるものを使って製作するという系統性があるなど思った。ホットボンドについて小学校1年生でも扱いが難しく、先生がつけてあげることが多いが、幼稚園でここまで使えることは素晴らしい。しかし、裸足で行っているのにも関わらず、ホットボンドが床に置いてあることには疑問を感じる。
- ・ 常に裸足保育を行っている。今日は子どもが作業に熱中してしまっていた。置き場所を作るべきだった。

3. まとめ

- ・ 自分の幼稚園でなく、別の場所で保育を受けたことは緊張を伴うと思う。しかし、普段の姿が出ていて伸び伸びと保育を受けていた。いつも子ども達がどんな表情で保育を受けているかみている。造形や音楽などの表現をする保育について子どもがどういう風に表情を変化させていくかが大事である。保育者が、子どもの表情（不安かな？やりたいのかな？）ということを見取りながら保育を進めていくことが大事である。指導案はあるが、あくまでも案で、その時の子どもの表情で変わってくる。今日は子ども達がとても早くやりたいという気持ちが表れていた。とても楽しく見ることが出来た。
- ・ 自分の経験から、落ち葉などの教材はたくさんあるが、秋になって自然に枯れたものをつかったことはあるが、人工的に乾燥させたものを使ってやるのを見るのは初めてだったが、こんな方法もあるということを知れて参考になった。せっかく自然を使う教材なので色を塗るのではなく、素材を生かしたものであってもよかったように思う。コラージュやおしば、版画はとても素材が生かされる。また、平面だけでなく、たくさんの野菜を使ってロボットを作るなど立体的なものを工夫して作るのも良いと思う。大塚毛よしの独自の素晴らしい環境を活用して、さらに造形遊びの範囲を広げていって欲しい。
- ・ 40時間の計画で、本時は15、16時間目にあたるが、残りの時間はどのように展開させていって、最後はどのように教材を締めるのかが知りたい。
- ・ 9月・10月位にはとれた葉っぱを使ってごっこ遊びを考えている。40時間となっているが、19年度の収穫が終わるまで続ける予定。当初は葉を使ってスカートやTシャツを作ろうと思っていたが、1人当たり約40～50枚の葉



が必要になる。1クラス40人いるために準備が不可能だと考えている。また、今、葉をとっても変色するなど、保存が難しいのでごっこ遊びで立体的なものを作る方向で検討中である。

世界に一つだけのおみこしを作って遊ぼう

1. 授業者より

- ・ 本園は着脱や食事後の歯磨きなどの生活習慣において大事なことを子ども達自身が自分でできるように促したり、集団生活において朝の挨拶・お返事・相手に対する思いやり「ありがとう・ごめんなさい」を子どもが自分から言えるように保育している。楽しい中もしっかりとけじめをつけた保育をしている。本園ではわらじ保育をしている。年度初めに親に布で作っていただき、一年中子ども達が履いて過ごしている。裸足でわらじを履いて過ごしているが、風邪を引いたり、怪我をしている時には上靴を履いて過ごす。ピアノに合わせてウサギやトンポに変身して体をいっぱい使って遊ぶリズム遊び、SI遊び(知育遊び)、朝の会に言葉遊びを行っており、絵本の中に出てくるカードを子ども達自身が楽しんでゲーム感覚で取り組み、最終的には子ども達だけで絵本を読むことが出来るようになっていく。出席の代わりに漢字で書かれたフラッシュカードを提示して、保育者が名前を呼ばなくても自分達で読んで返事をする方法を取り入れている。出席カードだけではなく、お道具箱・靴箱も漢字で名前を書くことで子ども達に覚えてもらっている。また、自分の名前だけでなく、お友達の名前も覚えられるようになっていく。黙想を行うことで心を落ち着かせてから保育を行っている。
- ・ 子ども達は裸足保育も行っているということで元気いっぱい走り回っていたり、やる時はやる、遊ぶ時は遊ぶなどけじめのある保育をしている。
- ・ 本時の活動についてだが、「世界に一つだけのおみこしを作って遊ぼう」というテーマで授業を行った。普段は個人での製作が多いが、今回は子ども達を2グループに分けて共同制作を行った。共同制作の中でみんなで協力して作る楽しさ、出来た時の感動をみんなで分かち合ってもらいたいという願いからこのテーマを選んだ。材料をおみこしに貼る前に、どんな物にしたいのか子ども達にイメージしてもらった。基本的には子ども達の自由な発想を出してもらいたかったが、保育者は使い方が分からなかったり、困っている子を助けるという形で子ども達自身で取り組んでもらった。色々な材料の中から全部使うのではなく、材料を組み合わせて使ったり、ゼリーのカップに色々な物を入れて使うなど、保育者が考え付かないようなアイディアで飾り付けを行っていた。土台は事前に保育者が段ボールで作っていた。それに子ども達が飾り付けをした。本来のおみこしの形に捉われず、好きなように子ども達の思いつき、自由な発想を出してもらって作った。二つのおみこしが全く違う物になったことに驚いた。子ども達も楽しんでいたのでやった意義がある。意見が割れたりすることなく話し合いを進めて取り組んでいたが、仲良く楽しんで良かったことが良かった。子ども達から「担ぎたい」という声が出たので体育館でリレーを行った。リレーの時も勝ち負けを意識しつつも担いで走ることをとても楽しんでた。
- ・ 普段は今回のような大きな活動は幼稚園ではしないので、子ども達が本当に伸び伸びと楽しそうに取り組んでいて良かった。自分達で好きなようにやってもいいと話したので、子ども達も自分で一生懸命考えて「こうしたらかわいい、こうしたらかわいなおみこしができる」と話し合うなど発想力や創造力が湧いて良かったと思う。おみこしを最初に見た時に中に何かを入れたい、中に何か入っていないかなど保育者が思いつかない発想をしていた。子どもの発想からさらに展開して、おみこしに扉をつけるなど次の活動につなげることができると思った。普段はSI遊びや言葉遊び、季節に合わせた保育が主であるが、ごっこ遊びなど、時間をかけた活動をやっていけたらいいと思う。両面テープの使い方を説明していなかった自分で自分で切って貼って剥がすことが難しかったため初めにきちんと説明すべきだった。声掛けが思うようにできなかった。自分で作ったもので遊ぶことは、子どもにとっても嬉しいことだと思うので、楽しんで取り組んでいた。夏祭り今回作ったおみこしを使うので、きっと子ども達も自分が作ったおみこしが使われるのを見て喜ぶと思う。いい思い出にもなるし、いい経験にもなったと思う。今回研究大会に参加して、学ぶ点や反省点が見え今後に保育に役立てていこうと思う。

2. 研究協議

- ・ 姉妹園だが普段の保育を見たことはない。保育者も緊張していて子ども達も初めはどうしたらいいのかわからない様子だったが、ピアノを使って遊ぶように勧めた所、楽しそうに取り組んでいたようだったので良かった。結果的に自分達で作った物で楽しく遊んだことで満足した姿が見られたので良かった。
- ・ 公開保育に当たり、何をどこからどう考えて手を付けていくのが悩みの種だった。他の方々の協力を得て今

目を迎えることが出来た。今までこのような公開保育に関わった事がなかったのでこれからもこういう機会を設けたいと思った。

- ・ 子ども達がいつものように甘えてる姿や寝転がって作業している様子が良かった。おみこしリレーでおみこしが落ちて負けじと走る姿がいや競争心だった。とても上手に走っていたので練習していたのか？
- ・ 年中の時に運動会でおみこしを担いでリレーをしたので慣れている子と初めての子がいたが、今日のための練習は特にしていない。
- ・ 自分達で描いた絵を切って貼ったり、様々な素材を使っておみこしを作っていて良かった。出来た後に作るだけではなく実際に持ってみたり、リレーをする事で子ども達もすごく楽しんでいてと思う。
- ・ おみこしを作っている時に子ども達が出来上がりの方になると、「こっちのグループの方がかっこいいぜ」など子ども達同士のやり取りがいいと思った。おみこしリレーの時にもみんなでワイワイやりながら楽しんでいてとても良かったと思う。
- ・ 楽しく作業していたように思う。子ども達がどこに何を付けようかと考えながら作業していて、考える楽しさを味わえたと思う。わからなくなってしまった子が気軽に先生に質問している場面も見られたので、先生と子ども達がとても親しい関係で良い雰囲気が進められていたと思う。最後にリレーで盛り上がり、楽しい雰囲気で終わって良かった。
- ・ おみこしの出来栄に驚いた。子ども達が気に入った絵を選んで優先して使い、良い物を作ろうという意欲が見られた。おみこしリレーでは競争なので勝ったチーム、負けたチームがあるが、先生達は「頑張ったから今日は引き分けね」とフォローしていて良かった。
- ・ 導入と最後の部分を見たが、沢山の材料を用意してそれに大きな布をかけて、ぱっと布をとるなど、子どもにおろす教材の出し方がいいと思った。
- ・ 世界に一つだけのおみこしがどんな物になるのか期待していた。作ろうと思ったものと若干違うものができたが、子ども達はとても満足していた。世界に一つだけのおみこしなのに、土台が同じ形のものだったのでどんな飾り付けにしても似たような物になっていた。土台自体に丸や様々な形など、子ども達の発想を生かした物を取り入れられるとよりテーマにあった物になったと思う。今回の土台は先生が苦労して作った甲斐があって振っても壊れなかった素晴らしい物ではあったが、先生の方で丈夫な物を作るのと、子ども達のアイデアを生かして作った物を比べる事もおもしろかったのではないかなと思う。子どもが作って結果的に崩れてしまっても、また面白いのではないかなと思う。ハサミ・のりなどの用具の扱い方について普段は個人個人で使っているのか、共同で使っているのか知りたい。
- ・ お道具箱が一人一人あってハサミやのりをお道具箱に入れて使っている。



3. まとめ

- ・ 作業中の子ども達の様子を見ることが大切である。今回は夏休みの為、子どもの参加人数が少なく、題材としては当初の人数39人の方が目的を達成できたのではないかなと思う。全体的な雰囲気は盛り上がり欠けた。先生も喋りすぎない、指導しようとするのではなく、子ども一人一人を大事にし、一人一人にアドバイスをしているのが良かった。
- ・ 造形は易しいようで難しい。子ども達が楽しんで取り組むことが大切だが、その中でものりの付け方や色の塗り方・紙の折り方などその場で教師が教えることも忘れてはいけない。このように子どもが工夫しながら取り組むことも大事だが、教師が支援していくことも必要だと思う。
- ・ 幼稚園での造形教育は最終的に小学校に繋げていけるように、子ども達の年齢に合った保育をしていかなければならない。今回研究大会に参加して、改めて年長の保育は小学校を意識した保育を行うことが大切だと感じた。



「特別支援」分科会

助言者 竹本千鶴

司会者 宮沢清美

記録者 八木沼みちる

授業者・提言者 篠木麻希

授業検討分科会

1. 授業者より資料説明（ビデオによる公開）《収穫祭に使うものをつくる》

【はし作り】

- ・やすりや小刀を使ったりもした。
- ・一人でできる児童はひとりで制作した。
- ・机をはなすよう配慮した。
- ・紙やすりをしき、やり易いように工夫した。

【フォーク作り】

- ・それぞれに好きなように制作していた。

【お皿作り】

- ・粘土を伸ばすときに、板にガーゼを敷いてはがしやすくした。
- ・たた板を使い易いよう工夫
- ・型にセロハンテープの芯を使用した。
- ・葉を拾ってきて型押しをしたり、粘土に顔料を混ぜて2色のお皿になるようにした。
- ・小皿を作ってから大皿作りをした。
- ・大皿は型を使わず、伸ばしたままの形で端を起し、さらに角皿作りも行った。
- ・色を2色用意し、3色のお皿を作った児童もいた。

【湯飲み作り】

- ・紐作りで制作

【収穫祭で実際に使用】

- ・フォーク、お皿、はし、湯のみ、ランチョンマットを使い、調理したものを食べた。

《魔法の水》

- ・魔法の水が何なのかを考えさせたかった。
- ・絵を描ける子、描けない子がいる。1枚目は下絵を描いておいてなぞらせた。2枚目は自由に描かせ、絵が描けない子は2枚目もなぞらせた。魔法の水をなめさせると、しょっぱいから塩水だと答えが出た。

《モノプリント》

- ・一人一人のスペースを確保
- ・100円で売っているプラスチックの板、水性絵の具を縞々に板につけるようにした。
- ・見本を見せることで手順を理解してできることをねらって、手を拭くなど細かなことを含めて黑板には1～、2～と提示した。
- ・色も絵も自分でつくることとし、手はあまり貸さないようにした。

2. 研究協議

《収穫祭に使うものをつくる》

- ・見本を見せながら制作させるときの留意点は、①完成の見本・制作途中の見本をつくる。②常に1～、2～と、提示する。③道具の準備は、耳で「はさみ」と聞いて準備できるようにねらった。
- ・象嵌とは、引っかいた部分に色を埋め込み、表面を削ると色が残る技法。削るのは児童には少し難しく、教師

が行った。

- ・オープン粘土は食器など、口にするものには不向きなところもありフォークは使用できない難点があったが、飾りをたくさんつけていた児童には自由にできて良かった。(オープン粘土とは350℃位の温度で、オープンで焼ける粘土のこと 軸薬はオープン粘土用のものがある)
- ・小刀などの安全指導については表情など、言葉でもしてはいけないことを教える。

《魔法の水・モノプリント》

- ・モノプリントは水性インクで行ったので、ヘラを持たない児童は手で行うこともできた。手もきれいに洗うこともできる。
- ・自閉症の児童は自由な制作が苦手で、見本や友達のものと同じになってしまう傾向があるというが、「こういうものを作ってみてね」と声をかけた。また、黒色しか使わない児童にはあらかじめ黒色を除いておいたりもした。
- ・画用紙の真ん中に作品がくるように、画用紙の枠を作っておいたり、プラスチック板で枠を作ったりもしている。
- ・提示したモノプリントの作品(ビデオとは違う)の制作方法 インクをつけた版の上に紙を置き、絵を描き、線の部分は色がつく。逆にその後の版にもう一度紙を置いてこすると線が白い作品も出来上がる。
- ・作品づくりを段階的に取り組んだり、同じような内容を繰り返すことで自由にできていったりしていた。

《障がい者の軽減を図るために》

- ・ペンやクレヨンを持ち方が弱く、筆圧が低い。鉛筆であれば4Bなどの濃いものにしたたり、鉛筆を輪ゴム巻いて太くしたり、サックを使ったりしてみた。はさみや雑巾しぼりなどの手の動かし方もはじめは難しくても、やっていくうちにできるようになっていった。

《「化石をつくろう」(ビデオ)を見ながら説明》

- ・紙粘土に石をうめて制作
- ・好きな石を拾わせてから何を作るか決めて制作

《「秋ののれん」(ビデオ)を見ながら説明》

- ・拾ってきた葉をフロッタージュしたり、葉をそのままラミネートし、パンチで穴を空け、クリップで長くつなげた。

《「切り残し紙版画」(スライド)の説明》

- ・形がうまくとれなかった他で使った紙版画の余った紙をそのまま使用した。上から色をつけたりもした。

《「ティッシュ・アート」(スライド)の説明》

- ・ウエットティッシュ(できれば薄いお尻ふき)にペンなどでインクをつける。ぬれているのにじむ。



課題別分科会

1. 提言者より

障害児にとって造形活動にはどんな意味があるのか。何を教えたらよいのか分からない、教師が手をかけ過ぎるなどの話を良く聞く。造形教育は美術を教育する(技術・方法・道具が使えるなど)、美術を通して教える(ものづくりを通して人と関われる、情緒的に落ち着いてくる)の2つがある。自分の持っている子の発達段階を知ることがとても大切。この教材が適切なかがわかる。教師がこの題材ではこのくらい手を貸しても良いということもわかる。造形についての発達は縦の発達(成長)と横の発達(幅が広がっていく)がある。横の発達でもじっくり成長を見守ることが大切。障害は3種類ある。損傷、能力の低下、社会的不利の概念がある。能力の改善のために私たちはどうしたらよいか、教師の働きかけにより補う(補助具など)。社会的不利については友達の様子を見せたり友達と話し合わせるなどは社会性を育てる上で大切なこと。作品が出来上がる、出来上がらないかは重要ではなく、何をがんばらせたのかが重要。授業の形態によって、目標を絞る込む、たとえば、通常学級での活動は友達との交流を一番に考え、活動や制作には手を貸すなど。生活年齢ではなく発達段階に合わせた目標、教材選びが重要。障害の軽減を図

るために18ページ①から22ページ⑤まで、自主的活動を参考に考えられること。時にはずっと切る、貼るなどの活動をさせてみることもある。他人と関わること、制作を通して「がんばってね」「きれいだね」と教師に話しかけられるのも大切。言葉のない子にデジカメを持たせると、いろいろなものを撮り、見ているのかわかる。他の子のまねもだめではなく、いいと思ったのなら、それも認めてあげる。そのようなことを考えながら目標を立てている。作品の出来上がりだけでは評価ができない。学習過程が重要。目標の立て方がじっくりしていれば、二割の部分子どもにがんばらせる。それも評価につながっていく。個人個人によって目標も違う、手立ても違う。子どもの実態を知ることが大切。必ず授業の前に実際に作ってみる。見本を作ることもあるが、手順や実態に応じていろいろ変えてみたりできる。子どもを肯定的に見てほしい。2分しか集中できないのではなく、2分集中して活動できると見てほしい。道具についても子どもたちが使い易いものを選んだり、作ったりすることが大切。白い画用紙に描かせると塗り残しが気になっても、薄い色の画用紙にしてみるのも良い。飾るときにも額に入れてあげるなど、展示の仕方の工夫も満足感につながっていく。

2. 研究協議

○縦の成長、横の成長を待つだけではだめなこともあると思う。どのくらい待ったり、手立てをとったらよいか。
-最近接領域(ヴォゴロツギー)子どもの今の、ひとつ上の部分にアプローチしてみるのが良いと思う。頭足人なら、教師が体をつけてあげる。次は「体は？」と言葉がけなど、少しずつ変えていくと良いのでは。

○1つ上のスモールステップを見つけるためには普段どのようなことに気をつけたらよいか。
-ピンとくる。丸が描けたら四角にしてみよう。単色から2色へと図工の教科書も参考にしている。最終的に何ができたらよいかを考え、それに向けてやっている。道具でも特殊はさみから普通のはさみと併用したり(回数や時間)してみる。

○のこぎりなどを使うとき、補助具を作ったりしているが、どうやって補助具を減らしていけばいいのかわからなくなったり、補助具がないとできなくなってしまうのではと補助具を作れなくなったりしている。

-自閉の子など、字の書き方などにこだわりがある。一度覚えた筆順を変えられなかったりする。けれど、対応してくれることもある。柔軟に対応していけるのでは？その子に道具の使い方を教えたいのか、満足感(作品ができた)を味わわせたいのかにもよってくる。

○ハンディキャップとディスアビリティの軽減を図るというよりは支援対象。配慮して考えてあげるとクリアしていけるものなのは。

-自分のできることを増やしていこうというのがある。配慮事項が減って自分でできることが増えてほしい。

3. まとめ

・提言者の、いろいろなアイデアを持って子どもたちを見ている報告に新鮮な印象を受けた。ランチョンマット、お皿、はしなど作ったものを使って食べたり思いつきといていたが、すてきなことだと感じた。小刀ややすりなどできないと決め付けるのではなく、体制をとりやらせてみる。可能性を信じてやらせてみることはとても大切なこと。作品を見てもらい、いろいろな方からほめてもらったりすることでやる気や満足感につながっていくのだと思う。



1. 授業者より

- ・色水作りは造形の2回目 図工科に関心の高い子どもたちである。
- ・絵の具の使い方がしっかりできていたことがうれしかった。筆を洗う、色を混ぜないという使い方ができていた。
- ・自分のものという意識が高く、個人の活動が中心になったために交流が生まれにくかった。
- ・作る活動に集中しすぎて、並べる活動が不足だった。

2. 研究協議

- ・2色を混ぜるだけで感動していた。子どもたちが次の活動を期待していた。自分が作ったという喜びがあった。「赤っぽいオレンジ色になったね」など教師から答えてしまっていた。子どもに考えさせるような発問の仕方が良かったのではないか。
- ・ブレ研をした席や場所の違いで、子どもの距離が遠く交流がしにくかったのではないかと思う。
- ・筆を洗ったり色にこだわるなど基本的なことができていた。
- ・絵の具の導入として興味をもった。見本が揃っておりやる気が起こっていた。道具類が揃えられており、事前準備の大切さを感じた。
- ・ペットボトル、フィルムケースではうまくいかない（透明感の問題）が、どんなものを使ったのか。→医療用の容器（検体を観察するもの）ペットボトルでは量が多すぎる（ダイナミックではあるが）ケースを使ったことでたくさん色をつくれた。色の違いを感じられるように透過するように窓のところに置くと良かったのではないか。並べ方に先生の言葉かけがあっても良かった。絵の具の入れ方も、「ちょっと」「すつと」「どぼつと」入れることで、カラーのパリエーションができたのではないか。
- ・グラデーションの色水は作りたいという気持ちになった。色水作りはそれだけ混ぜればどうなるかが発見になった。「ブルーベリーのような」など、作った色水に対しての発言があり、交流にも発展できる内容だった。
- ・「どうやって作ったの？〇〇色」というつぶやきはとてもよかった。子どもだけで関わり合いを持つのは難しい。一回見合う時間を作るなどあっても良かった。
- ・色を作る仕事をしている子がいて、教師の方法提示をしなくても気づく子がいた。導入としてはこれでよかったと思う。赤と黄色の間の色がオレンジ色だと気づかせても良かった。
- ・事前に見る力をつけるためにやってきたこと：子どもたちに色をたくさん塗らせることを意識した。国語の絵日記、生活科のあさがお観察カードの色塗りでは、茎を紫から緑、鉛筆で混色などした。色に関心を高める言葉かけをしたり、探検学習では花や草の色にも着目させたりする。絵本の読み聞かせではきれいな色の本を選んで読み聞かせする。
- ・2色にしたのは変化がはっきりしてよかった。きれいな色が美しく、不透明な色が汚い色と思われるのは悲しい。
- ・2色を使ったのはどうだったか。ねらいによって何のために色水作りをするのかによって範囲を考える。きれいというのは子どもによって感じ方が違う。混ぜることで別な色に変化するという不思議や喜びを感じてほしい。
- ・これまで学期末に時間を取り評価することが多かったが、作っている中で友達の商品を見たりするような授業だった。高学年の絵画では苦手意識が出て、意欲的にできないことを悩んで

いる。

- ・ 図工の苦手な子は、自分の技術が自分のイメージにならない。造形遊びは、何ができてても言いという中で技法を見につけさせられるので、苦手な子にも有効。大切なことは、①まねすることはいいことなのだという意識を持たせる。②自分の目に映るもの、友達目の目に映るものは同じではなく、自由に作ってもいいことを話す。③「〇〇がいいね」と具体的に評価する。
- ・ 描きたくない子には、まねすることは良いことということをもっと強調しても良いと感じた。1年生にとってはいろいろな経験をさせることが大切。範囲を決めることで工夫を見ることができる。
- ・ 授業をすることで子どもたちの変化 入学時の「好きなものなあに」で、「好きなものを描いてごらん」では、苦手な子はあまり描けない。のびのびと自信を持って描けなかったので、顔を描いてごらんなど、描き方を話しながら指導することも大切だと思った。「粘土でたし算」では、触った感触を大切に行ったところ、素直な言葉やいろいろなことで楽しめた。
- ・ 自由にのびのび描きなさいという指導では、感性の優れた子がいつも高い評価を得、教師が「上手」「下手」かの評価をしてしまう。描き方を限定すること（この色を使いなさいなど）で、評価のポイントになったり、段階を踏んで指導できる。苦手な子でも高い評価を得られることで、図工を楽しむことができる。

3. まとめ

《授業について》

- ・ 教科の特性として色と形で表現することになる。しかし、教師は言葉で表現する。子どもは自信のない発言が多い。
- ・ 子どもに自信を持たせたい
- ・ いろいろな発見、気づきのできた授業だった
- ・ 感じる心は図工だけではなく、他の教科でも育成できる。たとえばあさがおの色水作りなど。
- ・ 作った作品を展示して鑑賞してほしい。光をあてる、友達と交流するなどして。
- ・ 蛍光色の絵の具を使う。

《造形遊びについて》

- ・ 造形遊びは危機的な状況にある。実践されていないのではないだろうか。
- ・ なぜ必要なのか先生方がしっかり捉える必要がある。勝手に遊んでどんな力がつくのかなど、批判の声があるが、しっかりした指導の観点を持つべき。「体験」「経験不足を補う」「感性をつける」
- ・ 先生方も楽しんで進めていくことが大切。
- ・ 子ども全員をしっかり指導評価していく。（良さを認める）



授業検討 中学校・高校「みる・かんじる」部会

助言者 澁木 弘 志

司会者 長谷川 成 佳

記録者 大 木 敬 子

授業者 杉 山 浩 彰「日本の仏像彫刻のよさ、西洋彫刻のよさ」

1. 授業者より

- ・「自分の心でとらえる鑑賞」古田 洋司 編著 日本文教出版 から指導案を引用し活用したが、取り組みの段階で徐々に変更していった。
- ・美原中学校は鑑賞の授業は各学年、每学期1回取り組んでいる。美術科も定期テストを実施しているので、鑑賞では、作品名や表情的な特徴を覚えさせている。
- ・悩んだところは、研究主題と関わるが、ある程度の価値をもって考えさせるか、まったくフリーで考えさせるかである。また、本時案においては、西洋彫刻や仏像彫刻は、それぞれどんなところを表現したかったのかの部分でも悩み、最終的に、まとめるという形で表現した。
- ・表現したかったことをどう感じさせるか、一番心をひく像をひとつ選び、理由を書く部分では、生徒は選ぶに選んだが、ではどうか？については、机間指導をして、よさそうなものをピックアップし、思い切って生徒たちに指名させてやってみた。生徒の発表を聞いても、自分の意図としては、作品の中から物語を見つけるとか、今まで学習した中から関連して発表するとか予定を立てていたが、そこまでいかなかった。
- ・この3年生は自分のクラスで、普段の授業はもう少し、ワサワサ発言するのだが、今日は生徒も気を使っていたのだろう。ワークシートをごらんになり、ご意見や感想をお聞きしたい。

2. 研究協議

○まじめな授業で、勉強になった。普段の取り組みが立派に行われている。西洋彫刻としてこの5つを選んだ理由は何か？

—エピソードがありそうなもの、わかりやすく表現しているもの、肉体美や人間味を求めているものを大前提として選んでいる。像を見て選んだのではなく、日本の仏像彫刻と西洋彫刻を比較する上で、西洋は、表現的な要素があるので、それをわかりやすく表現しているのは何かと言うことで選んでいる。教師の意図がかなり入っている。

○時代区分については関係させているのか？

—ダビデ像はルネッサンスだが、今回は造形的な部分で選んでいる。

○ワークシート質問4はあくまでも両方ともに気づくということなので、流れに沿っていないと思ったが、なぜ質問4を入れたのか、その後対立させたかったのか？どちらの価値観を向いているのかを自分なりに考えるのが目標ではないと思われるが—

—題材目標は冊子指導案P35に2つ書いている。題材の目標と本時の目標とは、授業の流れでずれている部分がある。授業を組み立てる中で何をイメージするか、西洋の彫刻と日本の仏像彫刻を踏まえうえて感想を書かせたほうが良いと考え質問4ができた。指導案ではまとまっていないが、気持ちの中では、価値、新しく知識を得た上で、さらに考えさせようという意図があって質問4の流れができています。

○学期ごと鑑賞をやっている3年生は1、2年ではどのようなことをやっていたのか？過去に彫刻の鑑賞をやっているのか？またタイトルは？

—1年は教科書に記載されているものとピカソ、2年は日本絵画造形と教科書のマグネットあたり、3年は仏像とムンクあとは、状況にあわせて資料を作っている。タイトルは、ピカソ鑑賞ワークシート。ピカソは顔を中心とした作品で、立体的なキュビズムの見方。顔半分隠すと、鼻が横について横顔に見えたり、下半分隠すと目が正面からついているとか、耳が横からついているとか。ムンクは叫びで、たくさんの叫びを描いている。資料を見せたり、若いころから描いたムンクの絵を見せたり、絵の編成をやったり、マグリットは教科書をやる予定である。

○ワークシートの評価の規準、A、Bの差は？授業で、「もう少し先まで行けばよかったな。」と生徒に声をかけていたが、どう書けばAになるのか？鑑賞の評価については？

ワークシートは下位目標。自分の考えを書けば第1段階クリア。自分が書いたものであれば良い。表面的なものだけを書いていけばB（カッコいいとか、力強いとか作品から見た表面的な特徴なのでB）。それから何かを感じ取る、何かにつなげて書いていけば、評価が上がってくる。何が書いてあるからA、何が書いてないからBではない。表面的な状況だけを書いていけば最下と考える。

○文章表現がうまいとA？思っても表現できない生徒の見分け方は？

—自分の意見としては仕方ないことである。学力的なものがある、鑑賞評価があれば、文章で読み取るしかないと考える。

○宗教的な意味で、西洋のキリスト教の彫刻と仏像以外の神話の彫刻を比較させても良いのではないか？

—社会科の授業にならないように考える。何を伝えたいかを絞っていくと西洋と日本である。宗教的なことで比較すると新たな宗教的な知識が必要になり、東洋とすると中国、インドと色々な知識が入るので生徒の知っている知識の最低の部分であると考え。

○「ミロのビーナスに手がないから想像しよう、場所の背景を考えよう、顔はどんな表情をしているか、視線はどちらを向いているかなどで想像することも面白いね。」と言うことで比較をしなくても目標は達成できたと思うが何故比較したのか？

—学習指導要領に、日本と諸外国との関係、美術のつながりがある。西洋、日本もどちの美術も良い、お互い良いのだけど自分はどっちが好きか、自分なりの考えを持てるようなお互いを理解しながら自分の意見を持つというのがイメージにあったので、並列させてやった。その中には対比させるということでもある。

○ニケを紹介するとき、楽しいエピソードがあった。生徒の感想のところに、NIKEが印象的だったと書いているが、それは、自分の考えであろうが、先生が求めている部分であったのだろうか？何故エピソードを入れたのか？

—エピソードについては、単なる興味付けである。書かせる中で手立てが必要と考える。例えばNIKEを日常生活と彫刻とを無理につなげるようにした。生徒の感想については、それを踏まえた上で記入させたが、サイドストーリーが頭にあった。どう言ったらよいかわからない。

○エピソードを言わなかったら発想できるだろうか？

—単に見ただけならわからないし、逆に質問が出たかもしれない。一方的に説明したのでそうなったが、生徒から「どういう感じ」と言われて、話し合ってみるのも良かったかもしれない。

○何故たくさんの作品を出してみせる授業だったのか？ひとつの作品を違う角度から見たり作品の良さを意見出させたりした後、西洋と東洋の比較をさせる方法があると考え、先生の意図はどうなのか？社会科的な授業になってしまったのではないだろうか？

—たくさん出したのは、全体的な傾向をつかめるためである。西洋彫刻と仏像彫刻を感じさせるため一般化できないので、特徴的なものを選んだ。ひとつの像を深く見るのではなく、表現的な特徴を見るのである。自分は絞ったつもりであるが、生徒は目移りしたかもしれない。

- ・ 西洋の彫刻も仏像の彫刻も比較した上で人間の体は美しいとか、宗教的な考えがあるのだとか何か知らせたいものがあったもよいと思う。授業中にポセイドンの絵を見て、「手は何を持っていると思う？」と聞くと、「やり」と答え、近くの生徒が「魚をさすからもり」と答えた。想像力が膨らんで、こんな作品を見るのもいいね。といって終わってほしかった。
- ・ 鑑賞の授業では、物を見ることを意識してほしい。像があったら「へえ〜」でなく、どんな像かなと思い、意識をもらえるきっかけを与えられたらよい。例えば、西洋彫刻にはレプリカがあり、裏はどうなっているのだろうか？と色々感じてくれればよいと思う。
- ・ 一個を見るという授業も有り、またたくさん作品を見て西洋の彫刻、東洋の彫刻と比較して感じ取らせてあげるも有り。4つの狙いは、指導要領にある豊かに感じ取ることができる力である。生徒が感じ取ることができるようにすることである。杉山先生は、豊かさのためにたくさん用意されたのである。阿弥陀如来像を見て、足を止めて味わうことができる生徒を目指してたくさん材料を用意されている。比較することで感じるが増えてくる。生徒の中には、一個だけにこだわって感想を書いているのもいるが、モーニング娘が何故受けるかは、いろんなタイプがいるからヒットするのであって、たくさんも有りだと考える。心をうつ作品はどれですか？は、ねらいから離れてなく膨らましていくのではないか。もりの話が出たが、もり

ほどのくらいある？そんな話が出て質問4へ続けていくと、生徒は感じ取れるようになっていく。質問2, 3はよく自分もやるが、これは知識理解である。現実的な授業をやらせてもらった。知識理解は、昔はあったが今はない。鑑賞に知識理解があってもおかしくない。質問2, 3は正解らしいものが見えてくるが、質問4は、鑑賞における発想力、鑑賞における意欲、鑑賞における言語表現能力が問われている。鑑賞にも発想がある。鑑賞の視点は、関心意欲は態度であり、技能は要素で、そのようなものが全部含まれている。悩みながらやっていけばよいと思う。表現とどう結び付けていくかが問題である。

- ・ 他教科と連携して美術の鑑賞授業を計画するもの良いと思う。例えば、国語科と「奥の細道」と題してやることもできる。
- ・ 平面作品はよく鑑賞に使うが、立体の壁は、その立体を置く空間と見る人がその周りを想像することを任せられている。仏像においては、ざんげや威圧感や安らぎを覚えることを生徒は、キャッチしたと思う。そこを引き出してあげて、比較に持っていくと西洋の彫刻と仏像彫刻の違いがより明確になると考える。
- ・ 西洋彫刻については、このあとつなげるか何も考えてない。恐れるのは、これで一般化されたら困ることで、興味あるものを見て、調べてもらえたらいい。

3. まとめ

彫刻と比較しながらの鑑賞、西洋彫刻にギリシアの彫刻を選び、それらしい彫刻を選んだのか。仏像はたくさんの中からこれを選んだのかと考えながら授業体験をしてきた。教師が、価値観を抑えて選んだもので、授業の進め方は、テンポ良く要所をまとめながら授業が流れていた。たくさんの仏像を比較する鑑賞の仕方、いや一点だけを鑑賞する仕方と比較法があるが、選び方で価値観が変わる。ギリシア彫刻は神を人間に宿して八等身で筋肉隆々である。仏像は阿吽像があり筋肉隆々で視覚してみる鑑賞の仕方もある。仏像の傾向、西洋の彫刻の傾向など大雑把な比較の仕方もある。私は西洋の彫刻は、ロダン、ブルーデル、マニオールかなと思ったが、ギリシア的なものであった。宗教的な観点から鑑賞させる仏像と技術的な面から方法とある。仏像は内面的な表情が真髓だと思う。ギリシアは外形の美しさ、均整の取れた体の動きの違いを精神性、宗教性でまとめるのも良い。仏像は、内面を深め、努力を表現する。西洋彫刻と比較鑑賞させても良い。仏像には、腕や頭がたくさんあり、火玉があつたりもするが、生徒は違和感ない。そういうすばらしさを持っている。アニメ、妖怪で見慣れているのか、そういう観音を見て心地よいというのは何なのだろう。造形が美しい。美術の時間、鑑賞までも、評価をしなければいけないが、子供たちがどのように感じるか、個人の価値観であってもグループでまとめたでも良い。ひとつの作品を鑑賞する時、各角度からの写真や実物があつて触れればよい。その場所に置いた時、どんな空気を感じられるかが鑑賞だが、実物を見せるのが大事である。兵庫県浄土寺の大きな御堂の中に、阿弥陀如来と伽藍があり、西日が背中から当たるようになっている。極楽浄土を創り出しているのを見た時、たくさんの仏像をたくさん見るよりもひとつの仏像が言おうとしていることがわかる気がする。鑑賞したこと感動したことは大事だと思った。難しい題材をやってくれた杉山先生に感謝します。



課題別検討 「みる・かんじる」部会

助言者 桑田正博 内山博之 司会者 長谷川成佳 記録者 氏 絵 美

提言者 日野道子「子ども達がお互いの作品を見て、そのよさを感じる手立てとしての問いかけ」

花輪大輔「美術館における対話型鑑賞教育モデルの開発」

1. 提言者より

(1) 「子ども達がお互いの作品を見て、そのよさを感じる手立てとしての問いかけ」

- ・ 図工の時間は全学年合同で行なっている。全学年で同じ題材に取り組むこともあれば、学年によって題材を変えて行なうこともあり、系統性を考えて取り組んでいる。
- ・ 小規模校で、幼い頃からずっと同じ環境で育ってきたため、昔から築かれてきた人間関係や、周囲からのその子の長に対する固定概念は変わらない傾向にある。また、様々な経験やコミュニケーションの不足も感じられる。そのような子供の偏った見方や価値観を少しでも無くしたいと考えた。
- ・ みること・かんじることは、どんな子でもできるが、何をみてどうかんじるのか意識的にすることが大切である。そこで子どもたちの意識を方向付けるために教師の「問いかけ」の工夫が必要となる。私が実践してきた3つの問いかけについて紹介する。
- ・ 「ほめまくり作戦」 はじめ、子どもたちはみんなで作業をしていますが、一人の世界にいて自分の作品ばかりに意識がいきっており、視野の広がりを感じなかったが、個々に対する褒め言葉によって子どもたちは少しずつ自信を付けていってくれた。しかし教師と子どもとの間の1対1の共感にとどまり、ビデオからもわかるとおり子どもたち同士の作品を認め合ったりする姿はあまり見られなかった。子どもたちの意識の中に「人の真似をしてはいけない」という思いこみがあり、誰かが褒められていても、周囲の子は自分とは関係ないという素振りもみられた。
- ・ 「まね奨励作戦」 友達の作品の良いところを見取って、良いところは自分の作品にもどんどん活用しても良いことを奨励した。真似を奨励したことによって、子どもたち同士の中でお互いを認め合う言葉や姿が増えた。友達の作品に題名を付けたり、友達の作品を見てアイデアを思いついたりしていることから、友達の作品を見取る力が付いてきたのではと思っている。
- ・ 「自己評価カード」 子どもたち自身の内側にある達成感や目的意識を明確にするため、これを行って行なっているとその内容がいつも同じような感じであることに子どもたちがだんだん気付いてくる。そうするとものの見方を広める大まかな方向性が自然と身に付いてくる。
- ・ 教師の価値観の押し付けにならないようにしなければならない。作品や子どもと子どもとのつながりを作るきっかけや問いかけなど、子どもたちの視野を色々と広げていけるようにすることが大切である。

(2) 「美術館における対話型鑑賞教育モデルの開発」

- ・ 今回は美術館に連れて行くということ、アメリカ・アレナスの対話型鑑賞を元にしたギャラリートーク、鑑賞のガイドに求められることがカウンセリング論と酷似しているという3つの大きなポイントについて提案する。1年生の「美術館へ行こう」という単元で道展銅路移動展に連れて行った事を中心に述べていく。
- ・ 本校では、1年生は公募展、2年生は交渉中ではあるが出前授業、3年生では一つのテーマ、もしくは一人の作家について深めるということをしている。1年生の段階では多様な表現にふれること、北海道の作家の作品にふれることで、作品を身近に感じ、今後の表現に対する見方や考え方を深めるため公募展とした。子どもたちは長期休業課題として美術館に行ってレポートを書くという課題を出していることもあり、美術や美術館への関心が高くなっている。あたりまえのことだが、知れば味わえるのではなく、直接見ることで味わうことができる”という柳壮一の言葉があるように、紙面で写真を見るよりも実際に生の作品を見て作家の筆づかいや息づかいなどを感じさせたいというのがねらいである。
- ・ 美術館における対話型鑑賞教育として、最近アレナスが大変流行しているが、言葉だけが一人歩きしているようにも感じられる。彼女は今までの鑑賞教育の問題点として、作者の込めた意味や理論を説

み取ればよいとする作品観や鑑賞の進め方と、作品の価値の抽出と美術史的な価値の理解に重きを置く鑑賞教育を挙げている。教科として評価規準の中に知識・理解というものがないことから、ただ知識の飛躍を期待するのではないと考える。しかし、教育のプロとして教育的なアプローチの視点を我々は忘れてはならないのではないだろうか。

- ・ 基調提案における具体的な手立てとして、紀要にその視点を3つに絞って挙げた。視点1:「対話」を具体的な手立てとして活用する。これは見ることをきっかけとした語らいの共同体の中で自己認識だけでなく他者理解することを目的としている。また「これは何だろう」「どうしてそう思ったの」等の理由を問う問いかけによって、視覚的な観察力、注意深い観察による発見と判断、それに伴う思考の流れ、他者に話す言葉の想像力・表現力など様々な力が対話を通して育つと考えている。視点2:「受容」「交流」「統合」のステップを取り入れる。これについては、無条件の肯定的配慮、観衆相互の対話の組織化、観衆の意見の向上的変容を促す、ということがカウンセリング論に酷似している。つまりカウンセラーに求められている資質が鑑賞教育のガイドと一致する。さらに、「自己実現していくためには必ず他者の存在が必要である」という点では生徒指導と鑑賞教育も酷似している。視点3:「まなざし」の「共有」。対話が楽しかったということが重要な要素になってくるが、何十、何百にも目が増えたかのように、作品の見方が膨らんで、美術にそなわる多義性を捉えることができるようになる。
- ・ これらの手立てにより子どもたちは鑑賞者として育っていくだろう。中学を卒業すれば作者として美術に関わる子は全体の4分の1程度であることから鑑賞者を育てることは重要だと考えている。
- ・ 実際の授業実践では、前半に自分の好きな作品を見つけてレポートにまとめる課題を出し、子どもたちに会場を自由に歩き回らせた。後半はレポートを用いて班員に絵のガイドをする活動を行なった。ギャラリートークのルールについても飲み込みが早く、さらに今回やった表現方法を生活に活かそうとする姿が見られてきている。ワークシートによる意見交換は、付箋でおこなった。ギャラリートークのポイントとしてはルールに関わることでもあるが「必ず聞かれた質問をする」つまり一つの正解に導いたり「はい・いいえ」で終わるような質問は禁止をしている。もちろん一斉指導は私がするので自分自身も使わないように気を付けている。基本的に話し合いのルール、相互評価のルールは「班長が司会をして、班長から始めてね」と言うのでスムーズにまわった。アレナスの鑑賞法は、子どもたちが作者の意図を読み取るよりは「どうしてこんな色使いなんだろう」など、考えた答えの独創性をねらいとする鑑賞法である。ただどうしても対話方法の都合上、国語力の高い子に良い成績がついてしまいがちになるので、国語力の高くない子や熱慮型の子でもやって良かったなという授業を目指していきたいと考えている。

2. 研究協議

(1) 「子ども達がお互いの作品を見て、そのよさを感じる手立てとしての問いかけ」

- ・ レタリングの授業でアイデアが浮かばないときに、子どもたち同士を交流させると、もの見方が広がり、良い表現がどんどん生まれていった。
- ・ 話を聞いて振り返りカードや、友達との交流、そして他の子から褒められることのうれしさは、次の授業や作品へのつながりを深める上で、非常に大切だと感じた。
- ・ 子どものももの見方を広めるという事に関わって、色々手配するのは大変だが高学年を対象に鑑賞の時間を活用して子どもたちを美術館につれていき、地域の作品を見せるということもとても大切だと思う。ワークシートの工夫をはじめ、第一印象を取ったり、館長や学芸員に解説してもらうことはかけがえのない経験になる。そこからさらに発展して、実際にその作者にお会いして子供の作品指導をしてもらうことも考えられる。

(2) 「美術館における対話型鑑賞教育モデルの開発」

○子ども同士でギャラリートークをしたという話があったが、前もってその方法を指導していたのか、それともその場で初めてやってみてうまくいったのか。

—実践は11月だったので何本かの実践の後だった。今回は導入部分の鑑賞などはしていたが、実際にやることを伝えたのは会場に着いてからである。実際にガイドを疑似体験するというプログラムなので、その場で細かいポイントについては確認した。

○学校生活に活かそうとする姿が見られてきているとは具体的にどういう姿が見られるのか。

—題材の導入部分では、必ずアイデアを練らなければならない場面があるので、そこで子どもたちは自分と向き合い、自分なりの考えを言葉で説明できるようになってきている。またウエビングマップを広げながらアイデアを膨らませることが可能になってきているので必ずこれをするようにしている。

○小学校と中学校でやっている鑑賞がすごく違って見えるが、小中の連携について考えなくてはならないのではないか。

—小中の鑑賞教育の連携についてはまず釧路スタイルの配当表を見て頂きたい。残念ながら学校種が変わるときのギャップというのは他教科でもみられる。もともと図工と美術は基本的に別な教科で中学校では技術と美術に形を変えるが、なんとか技・美術の連携を高めながらやってきたいと考えているところである。

・ 鑑賞の授業はどうしても答えを求めがちになってしまうが、「あなたの目を見た感じで語ろう」などの声かけや、作品に対しての物語作りなど教師側のちょっとした視点の与え方で、子どもたちはどんどん作品に入っていけると思う。

3. まとめ

・ くしろスタイルを活用した小中の連携については花輪先生が言われたようにやってみてどんどん変えていくやり方に賛成している。ギャラリートークの実践は私も見てみたかったと感じた。美術館に行くことによって子供の作品の見方、情報の入れ方などがどんどんふくらんでいく。道展や全道展などの幅広いものをみることで感受性が豊になると感じた。

・ 子供の視野を広げるだとか、新たな表現を得るとか、コミュニケーション能力を育てるといのは、やはり作品交流というのが一番手短だと考える。また、作品を実際に自分で自己評価して全員の前で発表する、その中で良いものを工夫して取り入れていく。そのような活動から子どもたちの見方がだんだん変わっていくと考える。鑑賞から物作り、物語作りというふうにも実際の制作に変わっていくことも必要と考える。また、褒めまくり作戦では「いいね」「すごいね」と言う言葉にとどまらず、子供との関わり合いの中で具体的にどこが良いのか、どこが悪いのか、例えば「色がとってもきれいだね」と言うようなかたちでもいいから、もう少し具体的に言った方が良いと感じた。先生の言う“大人の価値観を押しつけてはならない”と言うことに関しては私も大賛成で、子供の目を育てるためにも色々なものにふれあい本物にふれさせていって欲しいと願っている。

・ 一ある美術館でモネの睡蓮をみた4才の男の子が「蛙がいる」と目を輝かせて喜んだ。「えっ、どこにいる」と驚いて訪ねる学芸員に、その子は「今、水に…」と一。感性の豊かさ、すばらしさを、一番気に入っているこのアレナスの言葉にかえて、まとめとさせて頂く。

・ 最近本当に色々な仕事が増え、大変多忙だと感じているが、先生方は非常に真面目で色々な力をなんとか付けさせようと考えている。図工・美術の中で一番大切なのは児童生徒をみていかなければならないということが大前提と考えるが、ではいかに力を付けるかというところでは方法論を使う人が非常に多いのではないかと感じている。しかし先ほども話があったが、大人の芸術感を子供にあてないということが大切である。作品の中には随分と指導が入っているものも多い。方法に頼るのではなく、やはり子どもたちが描いていく、ものを作る、または物をみたりしていく中で悩み苦しむことが大事だと考える。

・ 諸外国でも鑑賞教育は積極的に行なわれている。仕事は午前中までで午後からは教師自身の情操の豊かさを養う時間にあてている国もある。私達も忙しい中ではあるが、図工・美術の楽しさや、この教科が人格形成の一部を担っているということも含めて、必要な部分をともに補っていきたいと考えている。



1. 授業者より

(1) 「みてみておはなし」

- ・ 図工の時間を楽しく取り組ませたいと考えている。子供の思いを具体化していくため、基本的な道具の使い方を教えたり、抱いている思いを引き出す時間を充分に取ってあげたり、交流する時間を増やすことをしてきた。
- ・ 落書き帳に好きな絵をじっくり描くときのような、本当に楽しそうな顔で取り組んでもらいたいという願いがあった。今までは「どうやって描こうかな」とか、少し描いて「もう失敗」という姿があったので、動物の絵を描くときは、「顔を大きく描こう」と言ったり、楽しかった場面を描くときも、「周りにあったものを出来るだけたくさん描こう」と言って、「今日はこれが出来たら丸なんだよ」という明確な目標をもたせるようにしてきた。
- ・ 突然お話の場面を描けと言っても難しいので卵から描くことにした。卵とビニールが入っている飾りの付いたダンボールを、振ったり転がしたりして具体的イメージをふくらませてから描かせると、どの子もすんなりとして入っていった。次に「どんなものが出てきたら素敵かな」と言っているいろいろな思いを抱かせてから描くと上手にできた。そして3番目に絵の具を使って背景を描かせた。「失敗してもこの上に色々貼るから大丈夫だよ」と言ったら、筆をスイスイ動かしてぬることができた。本時は今までに描いた3つの物を組み合わせていくところだったが、授業がはじまると「ここにはこれ、ここはこう」とすぐに組み合わせ終わっている子、手をずっと動かしている子、ストーリーを語りながら場所を決めている子などの姿があった。
- ・ 予想では、今日は切り抜いてそれを画面の上に置いて動かして遊んで貼ると言う流れで、少しスペースが空いたらそこになんか貼っていいよ、もう少し色を塗っておきたかったところがあったらいいよ、というようにやっていこうかと思っていたが、一番最初に「何か質問あるかい」と言ったときに、「もっとふやしたいんです」と言った子がいて、はじめから増やしてもいいことにしたら、予想外にはじめから増やす子がたくさんいた。そうすると、構成を考えないでただ増やしている子が出たので、「切ってみて足りなかったらまた増やせば？」と助言したが、子供のやりたいようにさせた方が良かったのか、それとも「はじめから増やさないで1回切って並べてからにきなさい」と強く出た方が良かったのか。
- ・ すぐに出てしまっていた子への支援をあまり用意していなかった。みんなの作品を見たりお話を聞きあえる場面があればいいなと思っていたが、私が思っていたより進度に差があって出来なかったことも反省である。
- ・ 立ち歩いて他の人の作品を見るというのは図工ではわりとやっていて、場所が狭かったら広いところへ行くとか、道具も自由に前に取りに来させるという形もとっている。道具の使い方は説明したが、見とれず指導しきれていなかったことも反省としてある。しかし今日は子どもたちはイキイキとやっていたのではないかと思っている。子供の絵を見てすごく楽しかったので満足している。

(2) 「自然からのおくりもの」

- ・ 図工に限らず「できない」とすぐ言ってしまう子の多いクラスの子達に、どのような手立てで教えてあげればいいのかと言うところから始めた。基本的にできないとは言いながらも褒められれば嬉しいし、慣れれば素直に活動に取り入れてくれるので、そこをとにかくつないでいければと考えた。
- ・ 題材は、1・2年前の旅行先に、今日見本に使っていた作品に出会い、材料のほとんどが流木ということと、大勢の作者が“音楽隊”を作っていることを知り、これなら子どもたちと楽しくできるのではと思ったのがきっかけだった。

- ・ 子どもたちに流木といっても身近な素材ではないので、私が集めてきた。素材や作品に出会わせると、「自分も作れそう」「何かよくわからないけれどこれ使いたい」というふうに言ってくれて、一人ひとりが思い思いに活動をスタートさせるところから始めることができた。
- ・ はじめに道具をしっかり使えるようになるための時間を1時間とった。切ることや削ることが好きで、そこに良い素材があるのに切る、削る、という子がすごく多かったが、製作過程の中で素材を活かすことを覚えていった。
- ・ 今年さらに増えた膨大な素材を前に、これで何が作れそうかまず考えてもらい、そこからある程度同じような思いをもつ子の思いを、私や子どもたちのアイデアでテーマにまとめていく作業を行なった。
- ・ 子どもたちが計画する時間は3時間たっぷりを使った。道具は鋸、小刀、ホットボンドが主で、この3つを最低でもしっかり使えるようになって欲しいと思ったが、子供の計画や作業の中でキリを使いたい紙ヤスリを使いたいという意見が出てきたので、今回は必要に応じて使う道具という形でおさえた。
- ・ 今回は振り返りカードを使った。特に製作の4～7時間目で子どもたちが困るであろう事や次にやる活動を見取るために、毎時間振り返りさせた。
- ・ お互いの学び合いを通しながら製作していくことも大切にしていきたいと思ったため、初めから同じグループで作業が進められるようにした。
- ・ 後の方になってから一緒に素材を探したり、至らない点も気付き、最後の1時間で子どもたちが喜んで完成品を並べて満足してくれればと思っているところである。

2. 研究協議

○なかなか発想が思いつかない子や時間のかかる子にはどう指導したらいいのか。

一言でイメージを聞き出して、それを形にしてあげるとよいのでは。

一苦手な子供がいるのは当たり前で誰もが感じることで、教師が意識改革させる必要がある。子供はつまづいているのではなく立ち止まっている。なぜ立ち止まっているか見てあげることが大切で評価規準とも関わってくる。頭の中にあるものはイメージできないので、できない子には1対1対応でヒントをあげて考えさせる。その長年の方法がいけないのではないのか。卵のきっかけは良いが、割れた後の想定がまずかったと思う。それに対応する指導のすべが用意されていなかったように感じる。例えば卵を持ってきてその中からいろんな紙が出てきて、それを広げたら何かに見えるような仕掛けを作っておくとか、お話の絵だったらお話を設定する条件を3～4つ設定して、描くものを連想させ明確にしてあげてから子供に返してあげる方法もあるのではないのか。そういったような題材の展開を、繰り返し教材研究してやっていかなければならないのではないのか。

一イメージの持てない子に対しては、信じてあげることがもっとも大切だと思う。安易に方法論でやると、その子の表現ではないものを作らせてしまう。

○評価規準の中に、ハサミなどの道具を正しく使うとあるが、ハサミの先だけしか使っていない子や、利き手と同じ回転方向にハサミをまわして切ってしまう子がいたが今後どのように指導するのか。

一切りやすいように小さく切り分けることと、紙をまわしながら切ることの2点に重点を置いていた。ハサミの先だけを使っている子には、また別の単元で繰り返し指導していく。回転方向に関しては気付いていなかったのだから配慮していく。

○色遣いが多く、きれいだったが、普段から色遣いについて意識して指導をしているのか。

一今回はゲルマーカーを初めて使わせてみた。クレヨンよりも発色がよく、描き心地が軽い。クレヨンやペンも使って良いと言ったが、初めてのゲルマーカーを楽しんでいた。きれいな6色セットで、仕上がりが良くなったと思う。背景は絵の具で塗ったが、混色はまだ勉強していないので黒以外の色を一つ使って塗りなさいと指示。日常的には特に意識していないが エリックカールなどの鮮やかな絵本を置いているのが関係しているのかも知れない。

○背景と主題、さらに周辺のパーツまで別々に描くことによって、卵の聞き具合やパーツの付け足しが自由にできるところが大変参考になった。子供によっては画用紙が二枚になっている子もいたが、先生が一人ずつみてアドバイスしているのだろうか。

一背景を描いたときに、「これじゃあ収まりきらない」「中身が飛び出している場面を描くにはせまい」という子がいたので、子供の表現したいものに合わせて画用紙を縦横に増やしていった。最初から大きな紙を用意することも検討したが、ただ「大きい紙を使いたい」という風になっても困るので付け足すかたちを取った。

- ・ 2年生という子供で、描く・切る・貼るという造形の行為はどういう意識レベルなのか、「ふしぎなたまご」であれば絵だけで表わすのとどう違うのか。一つ一つ丁寧な指導過程を踏んでいたが、その細かな指示や教師の思いが逆に子供の失敗を生み出していないか。それが造形要素の多さにつながっているような感じがするが、もっと直感的で感覚的でも良いのではないだろうか。絵の構成を学ぶのも良いが、もっと子供は自由で直感的にやる時期もあってしかるべきだと思う。
- ・ 「卵を割ったら～」という場면을提示することによって意欲を高め、関心をそそって表わしたいものをイメージさせていた。それをどのようにフィードバックして子どもに返すかといえば、例えば今日は高度で色々な発展性が見られたが、私だったら最後に「みんなのたまごを見たら全部不思議だね。他のたまごにはない不思議だね」という所に低レベルかも知れないが帰着することで、一番最初の意欲化のところの評価が子どもに対してできると考える。少し心配なのは、ふしぎな卵から何が出るかというところで、さらにストーリーを作っていくと、せつかくの卵から外れてしまうのではないだろうか。最後に振り返ったときに「沢山のストーリーがあるよね」となり、最初の卵の素敵さが、かなり薄くなってしまっているのではないだろうか。

○昨年と同じ素材を2回繰り返したことによって、前に学習したことを活かせるという点もあるが、新しい物に対する意欲という点で、子供達の反応ははどうだったのか。

一自然素材の良さとして、同じ素材なんだけれどすべて同じではないと言う面白味があるということ、活動を通してつくづく感じている。また6年間のうちに一度しか使わない素材もたくさんあり「もう少しやりたかった」というところで終わってしまっていることがよくあることから、今回はこの素材を2回使うことにした。昨年より3倍の量の素材、また色々な種類の素材を用意していたのもあって、子どもたちはとても喜び、活動に意欲的だった。

○本物のようにできないから下手だ、いやだ、と言う子もいるが、自然素材のそのものの形の良さがあるなかで、なぜテーマを具体物にしたのか。グループでテーマを決める事に関してはどうだったのか。

一自然素材の良しの活かし方というところでは、沢山の自然素材を使った作品や写真などを題名をふせてみせ、想像を膨らませた。色や形をなるべくそのままつかうこと、自分の欲しい形や色を探すことが自然素材の持ち味と考える。昨年は素材を見て、「これ〇〇に見える」という子が大部分で「こんなの欲しい」という子は少数だったが、今年はそれが反転した。それはやはりテーマに沿って作ったことが大きく関わって



ると思う。本物に似ていないからうまくできないとか、具体的に became ことで困るという事に関しては、テーマを先に決めないで、この材料で何ができそうか考えさせてからグルーピングして子どもたちがあまり困ることのないようにした。テーマを一つにしてもよかったのではとの意見も頂いたがこれが完成したら一つの王国としてまとめようと考えているところである。

- ・ 大人が感じている「流木」というものと、5・6年生の子どもたちが流木を見て感じるものの違いは何なのか。素敵だな、面白いなどは感じるが、子どもたちははたしてそのように感じるものなのか。もっと子供から見てリアリティーのある題材にしてはどうか。
- ・ 大量の素材の中から自由に選べたことが、子供の発想を活かした大きな要因になっていると感じた。先生の素材への思い入れや技術面の充実した指導が十分に子どもたちに伝わっていたことや、先生が子供を無理に意図する方へ引っ張っていなかったこと、何より人間関係の良さが作品の良さにつながっていて、とても良い図工の授業だった。
- ・ 今日の授業は大事な提言をしていると思うし、とても根源的な良い話題提供だと思う。かく、つくるでは「何を」描いたり、つくるのが重要なポイントとなってくる。今日の子どもの関心意欲態度を高める指導は何だったのか、この観点は他の3つの評価基準の観点につながってくる。この指導は曖昧になりがちだが、今日の授業では明確に見えた。「魅力的な素材」を提示することによって意欲を高め、関心をそそって表わしたいものをイメージさせていた。それをどのようにフィードバックして子どもに返すかといえば、先生は「形はそのまま使うんだよ、それを探すんだよ」とすごく良いことをいっていたが「みんな探せたよね、自然の木がこんなふうに変身して素敵だよ。自然が生きてるね。自然のものじゃないと出来ないものが集まったよね」というところに帰着することで、一番最初の意欲化のところの評価が子どもに対してできる。少し心配なのは、子供からの発想をうんと大事にすることは良いが、やはり「自然からの贈り物だよ」とか、「自然のものには命や歴史があるから大事にしようね」というところを大切にしていかないと、イメージを作るために短縮化してしまう傾向がある。テーマに関しては具象的なところからちょっと抽象的なものにはずしてあげるとパート2の意味がさらに鮮明になり、適度な抵抗感が持てて良かったのかも知れない。

3. まとめ

- ・ 今日の授業では本当に子供がしっとりとしていて、自然に学習に打ち込んでいた。自分なりの思いを持って活動していたことが一番大事なことだと思う。
- ・ 先生方に色々な思いがあって、取り組んだ結果が子供に反映されている。
- ・ 今日の検討会では図工は図工の能力をしっかりと育む時間だと言うことを再認識した。基本は子供に寄り添い共感しながら褒め伸ばしていく。1つの教材だけではなく長いスパンで見えていく。図工の時間こそ子供をしっかりと見ていないと良い指導は何も出来ないだろう。



1. 授業者より

(1) 「模様でつくる切り絵の制作」

- ・ 今回の授業をやっている、一番ここ！というのが、デザインよりも生徒が集中して取り組めればいいということである。これまで経験してきた中で、「私には無理」「できないんだ」など、センスのある生徒でも、過去では継続することが難しい、未提出だから評価が悪かったなど、持っているものは優れていても、達成感を味わえないまま集まってくる生徒が多い。
- ・ 生活文化科は普段被服や調理実習で大半を占めている。生徒は、集中して何かを頑張る達成させるのが苦手である。
- ・ 「出来なかった」「私ダメなんだ」という気持ちを覆したいという目論見があり、切り絵ではサイズを大きくしていない。やって結果が見えるよう、大きさを決めている。
- ・ アーモンド形・四角形・三角形など単純な形を組み合わせて単純に抜き、デザイン、絵が出来る。分かりやすい手立てを取って、それをデザインに生かしている。作業としては進み、今回半分を目標にして取り組み、計画は実行出来た。生徒も頑張る、「もっと褒めて！」と喜びの声が多く、いい刺激が得れた。
- ・ 作品では、形を切っていく上で確実に面を抜いていくので線を間違えて切ってしまうと、「どこかでつながってる、大丈夫、このまま頑張って行こう」と後押ししている。色をつけるといいね、というアドバイスをもらい、これから刺激していければいいと感じた。
- ・ 切る作業では、結果がすぐ見えるので、のめり込んで作業を進めていく生徒が多い。普段、家に持ち帰っての作業、居残りしたりとか嫌がるが、逆にやりたがる生徒もおり、積極的に取り組める、「やれた」という達成感が味わえる教材である。



(2) 「抽象彫刻をつくる」

- ・ 抽象彫刻に関し、生徒がテーマを作り、そこから来るイメージを紙に描き、紙から油粘土でエスキース模型を作り、模型から展開図を描き、石膏ブロックに下書きをして彫るという流れを行った。今回初の彫る作業で、緊張感を持ちながら作業する時間であった。統一したテーマを設けていない。生徒の考えは広く、こんなのが出てくるのか！というようなテーマがあったり、形があったりするものが毎年やっていて面白いと感じる。
- ・ 抽象といっても一つは、テーマを持たせることにより形に意味を持たせている。テーマを考える上でも3段階に分かれていて、音楽で例えたらどんな音楽なのかという具体的に振り下げた所まで生徒に考えさせて、一つ同じ音楽という言葉でも様々なイメージがあるので、そこから形につながるよう具体的に考えさせている。文章にして描けない生徒もいるので、粘土で形を考えるという工程が入っている。過去に粘土で形を考えないでやったことがあったが、展開図を描く時に出来ないということがあったので、時間かかるが、立体におこすというのを重要な場面として考えている。石膏も牛乳パックに石膏を溶いて、自分達で流し込んで作っている。そうすることにより、とても丁寧に扱い愛着が持てる。問題点はとても小さいので、彫る時にノミの幅というがあるので、すごく細かい作業が無理である。この素材についての愛着があるので、自分



で作るのはとてもいいということで続けている。授業のメインは彫る手順を確認して、今までの授業の中ですごく失敗多かったのが、色々な面から彫ってしまい、いつまでたっても形が出来上がらないというのがあった。模型を使って説明したが、模型が生徒の中で縦にそってノミを入れて一気に彫ろうとする生徒がいたので説明不足だった。外から彫って行って線のラインに近づけて行ってほしかったので反省点である。しかし授業後半では理解してまっすぐ彫ろうという意識で進めていけたので良いと考える。

2. 研究協議

(1)「模様でつくる切り絵の制作」

○作品の制作中でおこる妥協とチャレンジ、どちらが多いか。

一単位も関係あるので、時間内に終わらせるだけの目安をたててくれるといい。自分の力量を、限られた時間のある程度の見通しをたててほしい、妥協も一つの方法。デザインは本来の目標に達しないが期日を守らせるとか大事というのを伝えたいと考える。もっと作品を作りたいという生徒が多いようである。

○自然物・動物・植物をやる中で、模様として生かすのにどんな指導をしているか。

一自由にデザインしてごらんと言っても、なかなか浮かばないので、サンプルをテーブルにおいて、テーマをおろして、やりやすそうなものをコピーして用意する。簡単にシルエットを描いて線を入れてごらんという指導をする。シルエットを描く時、上手に描けないという思いで拒否反応が出るがあるので、見本を見せて「歪んでもいい、これも歪んでるでしょ」とか、悩んでる生徒には「ここにも線入れてみたら？」など、どんどん手出ししている。サンプルを見せておいて、テーブルに置くというのがポイントである。デザインを真似るのはダメでしょ？と言われるが、真似するのは悪いことではない。そこから自分の模様を入れていけばいい、そういう所から学んでほしいと考える。

○白と黒のバランスをどのように指導しているか。

一細かい模様から切っていく上で抜いて、抜いている時に考えながら、最後の段階で判断したらいい、最終判断の時にもう一度相談に乗るといった形をとっている。

○飾られた作品の見せ方について。

一立体の作品は、アロマキャンドルの中に入れてたり、玄関において電気を入れて飾ったりした。口を出さずに生徒に任せて展示させたりしていた。

○Tシャツコンテストをしていたと聞く。その内容を教えてほしい。

一Tシャツデザインコンテストというのを実施している。子供用サイズのTシャツを購入し、ステンシルシートをカッティングして、スポンジでスタンプする。最終的に文化祭に提出して、人気投票ということで投票してもらい、その結果を表示している。そうすると、美術が苦手の生徒でも何票入ったか？という興味や、上位にランキングされると、喜びを得られ、励みとなるので実施している。

・デザインについて、服のデザインの一部、皿のデザインなど、切り絵でデザインしてもいい。

美術や選択だけではなく、他の教科でも使えると考える。

・ケーキの上に切り絵を使って、粉を塗って絵を作ることも出来ると考える。

・カード交換やシルクスクリーン、ランチョンマットのデザインにも使用できると考える。

(2)「抽象彫刻をつくる」

○中2で抽象に取り組みせる点で難しいことはどんなことか。

一テーマが太陽で、太陽の形を作ろうとする生徒がいて、そこからどうやって切り離していこうかと非常に難しい所。作ったものというのは自分にしか分からない、他人がみてもそのテーマを説明しなくてはその形の意味は本当の所伝わらない、自分と先生にしか分からないということを生徒に話している。一つ一つに意味を持たせ、自分の中でこれはこういう意味だ、というふうにして作ってみて話している。他人から見て、すぐこれは〜だとすぐ分からないのが面白いと話している。

○評価についてはどうしているのか。

一評価は平面的になってしまった時は、良くならないが、評価するポイントはプリントの資料にすることで記録されていて、過程ごとの蓄積となっている。形では出ないが言葉の面では出てくる生徒もいるので、そういった所も色々な面での評価をしてあげたいと考えている。

○言葉の中から形にしていく時に、導き出す助言はするのかどうか。

一生徒が、いくつか気になる言葉を書いて、一番重要と思うものを2〜3個チェックし、その自分で決めた言葉を更に詳しくして、その中からこれを表現したいというのを絞る形を取っている。テーマの言葉について、自分がどう考えているかで、文章的に書いていくことで、その形のヒントみたいなものがでてくる。繋がっている、支えられているなど、そういう言葉が出てきて、形に繋がると思えば、それにラインを入れて、こういう形でやってみてはどうかとアドバイスしながら行っている。

○生徒に分かりやすい評価、明確にしている所はあるか。

—初めの段階で、すべての面から見て形を考えなさいという話しはしている。そこの全ての面から見て考えられた形が出来ていればいいというふうにしている。彫る作業なので全く同じくはならない者もいる。技能面では石膏作品もエスキースも評価し、キレイではなくてもきちんと作れているかどうかを見たいと考える。

○石膏はどのように作るのか。

—石膏については牛乳パックに水を入れて、石膏を入れて、混ぜて作成している。溶いて入れなければ1時間の中で作れる。過去に自然石でも作業したが、粉が飛ぶので好ましくない。石膏は初めに水をつけて彫ると、粉が飛ばない。

- ・ 彫刻では、量や重さなどの見せ方も大事である。ジオラマ的にしてスケール感を出すのも面白いと考える。
- ・ 完成した作品のアイデアスケッチにストーリーをつけて作品と一緒に展示するのもいいと考える。
- ・ 途中段階で生徒同士が作品を通じて、会話を持つのが良いと考える。
- ・ 自由に立ち歩いて作品を見る時間を設けている。それをすると、席に戻った時に閃きがある。他の生徒がどんな表現をしているか、興味をもたせられると考える。
- ・ 作品には色々あるが、力を入れているのが解説。作品と解説と一緒に廊下に貼り出したら、こういう感じなのだ気づく。解説の大切さ、絵の貼る場所、目立つ場所に貼ることも大切。今回行った制作カード素晴らしい、毎回赤ペンで先生がチェックし記入する。時間がかかるが、生徒と会話をしなくても同じメリットがある、とても良いと考える。



3. まとめ

授業を見るだけではダメである。授業をやった先生はすごく自分のためになったと思う。全部の教科を見て、幼稚園で最後、作品の前に立って説明していた。図工美術は生徒指導のかたまりの授業、生徒指導をきちんとやっておかなかったら授業は成立しない。だから大都会ではいけない、きられると考える。この大会では抽象・立体が多かった。中2・3年、高校生は難しい時期であり、自分の本当の心情は先生には絶対言わないと考える。だが、スムーズに行っていて、中2の授業がやりたくてウズウズしている様子が手に取るように分かる。それはやはり教師の力量？力量がなければできないような教師は難しいのか？生徒指導が出来なければ、つぶれてしまうような授業だから難しいのか。中学校では学校で一人、なんぼ緻密に評価とかその都度評価をつけていった方がいいにきまっているが、中学校で500人規模に一人。毎時間本当に付けられるのか。次の10分休みの時に次の授業の準備が入ってくる、学年違えばやっている内容も違う。違う準備をしなくてはいけない。そこで緻密なことが出来ていけるのかどうか。音楽よりはいいが、作品が残るので、どちらにしても芸術教科は風前の灯火であると考え。まとめにはならないが、学校に戻って、絶対に必要な教科なのだということを改めて確認してきましたと帰ってほしいと思った。

課題別検討 「かく・つくる」部会

助言者 引地俊夫 小野三枝子 司会者 田越智保 記録者 川島周子

提言者 上野秀実「絵本の制作」

木田るみ子「ドライポイント」

1. 提言者より

(1)「絵本の制作」

- ・三年前から絵本の制作を始めた。
- ・教育課程の改訂により、美術の時数が見直されてきた。
- ・芸術2時間を実施してきたが、今度も続けてできるように苦慮してきた。
- ・1時間単位で実施できるカリキュラムづくりに取り組んできた。
- ・絵本に取り組んできた理由は、製本技術についての、画用紙、色画用紙などの組み合わせで1時間単位で実施するのに対応できる題材であること。
- ・高3生徒の発想は友達どうして認め合える絵本となった。売っている物のようだと喜ぶ姿がある。作品は後輩の手本となって財産となっていく。後輩がほしがらるほどの作品だということ。生徒の心が育つということ。
- ・作品づくりについては、物語づくりに抵抗を感じるので、好きな歌詞を利用するなどした。1年→2年→3年(絵本)学年毎の積み重ねが生きている。
- ・デジカメの活用など子ども達の独自の手法、発想で取り組める。製本技術については早くできた子から一人ずつ教える。
- ・完成したときの扉を開くときの感動、ページをめくるときの感動、見せ合う楽しさ。生徒は素晴らしい感性の鋭さを持っている。
- ・子ども達の発想に「まいった」と思い知らされるときに教師としての喜びを感じる。東高校の生徒について作品を通して紹介できることに幸せを感じる。

(2)「ドライポイント」

- ・表現の楽しさを味わい、他者と比べながら意欲を持って取り組めた。ドライポイントは難しい所もあるが、制作の中で制作過程を振り返るカードを用いた。1年生は一般的色づくり、2年生でドライポイント。下絵づくりはできるが彫りに難しさを感じる。ドライポイントの技法的な面に興味を持って取り組めた。
- ・鑑賞の授業と表現の授業の関連を大切にしたい。マグリットやダリなどシュルレアリズムを味わう。生徒どうしが意見を聞き合うことを大切にしたい。
- ・下絵の段階でアイデアや資料を口にする生徒が多くなってきた。塩ビ版の下に黒い紙を敷くが、彫りに入った1時間目に渡すようにした。塩ビ版を確認しながら作業を進め、途中で黒い紙を渡すと黒い紙の必要性を実感する。キーワードをフラッシュカードで確認しながら指導した。刷りに入るとプレス機がかかるとどうなるか興味を持ちながら、修正を加えながら仕上げる様子が見られた。
- ・鑑賞会を開くようにしている。本人、周りの生徒に良い影響を与えるものになる。毎回カードを使い、生徒の考えをとらえるようにしている。
- ・反省として、線のこと、反転すること、A4版半分くらいのほうが良かった。時間の関係と見通しの甘さで反省することがいろいろあった。

2. 研究協議

(1)「絵本の制作」

○生徒の変容について教えてほしい

－今まで描けなかった生徒が取り組めるようになった。苦手な子が、しっかり製作するようになった。

- ・模写（1年） シュルレアリズム（2年）で実践したみたい。想像がつかないものをつくるというのは、その深層心理がおもしろい。
- ・白 B5サイズの紙にドライポイントをさせた。黒い紙に白い鉛筆で描かせる。線ではなく面で描かせる。10時間前後で2、3枚描く事もできる。
- ・白いコンテと擦筆で黒い紙に描かせている。メゾチントをやるには片ぼかしの技法が必要である。

(2)「ドライポイント」

・ドライポイントが点描になり、大きな作品にできない時間のなさが残念である。

○赤い靴という絵本の表現がきわどいが。どのように指導してきたか。

－表現は自由。基本的には口を出さないことにしている。

・情報化社会の中で、表現について、危険なものに制限を加えたり、自粛・規制したりなどは必要ではないか。

○何も言われなくても心の指導をして来てはいると思うが、暴力的なもの、わいせつなものについての指導はどうしているか。

－漫画的な表現は自分なりのキャラクターであればよしとしている。他についても自由でよいと思う。芸術新潮などで普通では抵抗を感じるものでも見せて良いと思う。

○絵本制作はどのくらい時間がかかったのか。

－3年生の時数50～56時間の中の20時間使っている。

3. まとめ

- ・「くしろスタイル」はこれから実践をしていくために作ったものである。
- ・小中高の流れが大切である。
- ・美術の時間が少なく、中学校では苦しい。
- ・鑑賞から表現の力をつける取組がある。平面と立体を組み合わせることが大切である。
- ・子どもの実態から意欲を引き出す事の大切さを感じる。
- ・指導と評価の一体化を図る事はこれからも求められる。
- ・「かく・つくる」に留まっていけない。表現領域は教育課程の改訂から、主題選択から主題の生成に変わった。
- ・今回の提言では発想から表現までがよく取り組まれていた。
- ・小中高の美術をどうするか。現行の指導要領の高校が整理されている。根本のあり方を見て、小中に立ちかえるとよい。小中で基本となるものを見極める必要がある。
- ・時間のない中ではあるが、情操を育てていただきたい。



1. 授業者より

(1) 「コロコロコロガート」

- ・全8時間扱いで1・2時間目の授業では技能面ではカッターの使い方、ボンドの接着の仕方、3・4時間目は作品のイメージ作り
- ・ヒントコーナーを作ったが、3・4時間目でデザインが出来上がっていたところがあり、あまり生かされなかった。
- ・前時までは床などで作業を行っていたが、本時は机での作業が多かった。
- ・よく工夫していた。

(2) 「ものくろアート」

- ・1・2時間目は竹の書き方 基本的な技法（筆の使い方）を覚えさせた。
- ・モチーフを中心に世界を広げていく。
- ・濃い墨から薄い墨へ変えていくこと 白描法 没骨法 三墨法
- ・竹は実際に見ていないので葉の生え方など本物とは違っていた。実際とは違うところに気づき、とまどうところも見られた。
- ・野菜は本物の葉を見てみたいという声から、実際のを本時提示した。
- ・前時まで描いていないものを描いている子が多くいた。友達作品を参考にしている子もいた。
- ・社会科の室町時代の学習から水墨画に取り組んだ。これから銅路らしさを出してみたい。
- ・四種類の筆を使ったぼかしなどは子どもたちが気づいていった。
- ・線描画着彩という技法は低学年から行っているもので、子どもたちは線からでも面からでも描けるということで考えればもっと発想が広がったのではないかと思う。

2. 研究協議

(1) コロコロコロガート

○考える・工夫を深めるための取り組み、支援はどのようにしたか。

—発想は豊かなので工夫をバックアップするために、技能を身につけさせようと考えた。(4年) ぐみにする前に何に見えるか聞いたり友達に意見を求めたりした。偶然できたものを生かせるように振り返りをさせた。(6年)

○紙以外の材料の与え方、転がり方→自然に転がせるようにさせたいのか、箱を動かすのか。

—教師側が考えていた道具は画用紙。それ以外の道具は子どもが工夫した。箱を動かすことを考えていた。

○ビー玉を転がす場面は本時にあったか。また、作ったものを試すということはあったか。

—ほとんどの子は試しながら作業していた。

- ・子どもの遊び心として、誰がゆっくりビー玉を転がすことができるかなど考えながら制作させても良かった。
- ・技能面の指導だけで、子どもの発想は広がるのかという感想を持った。森を抜けるとトンネルがあるというストーリーが作品にあっても良かった。発想から技能をつけるという方法もあるのではないか。
- ・こう動かしたいけどうまくいかない→そこでどう考えるか。T字路の作り方を知りたい、坂道の作り方を知りたいという気持ちになるのではないか。
- ・一人一人作っているものが違う。子ども一人一人のサブテーマがあるのではないか。ストローで橋を作る、割り箸、モールなど子どもたちはいろいろなものを使いたいと思っていた。転がるという動きのストーリー性があっても良かった。ゆっくり転がる場所、ジャンプする場所、点

数が入るところなど、発想がとても柔軟だった。箱の使い方もいろいろあってよかった。二段、三段、L路など発想が豊かで良かった。

- ・ジェットコースターを作ろうということで熱中して作ったことがあった。接着はガムテープ、ホチキス、テープなどで、カーブなどを夢中になって作った。課題の与え方でヒントコーナーも生かせる。どこを工夫させるか焦点を絞る。
- ・子どもがどの部分を工夫しているのかどこを工夫しているのか鮮明にする。
- ・自分の思いを表現するための技能は必要だが、子どもの必要感から、技能を身につけさせることも大事。
- ・子どもの思いを吸い上げながら何を工夫させるのか、さらに考えていかなければならない。

(2) ものくろアート

- ・銅路らしさ 銅路は霧が多い。霧にかすむ町、白と黒の世界があると思う。題材に銅路らしさが不足していたかなと思う。竹林を見たことがない：生活と関連がある題材のほうがいいのではないかと思った。
- ・モノクロの世界の不自由感から、すみ、水、筆を使い、不自由さから技法が生まれる。見る側の想像力がかきたてられる。不自由さを使い、表現する側も簡潔に大胆な表現の工夫ができるのではないか。発展できる教材だと思う。
- ・イメージを膨らませて技能を得るのか技能があってイメージを膨らませるのか考えていかなければならない。(使い易い筆を使うのか、イメージに合った筆を使うのかといったこと)



3. まとめ

- ・子どもたちの発想のすばらしさに驚く。箱を貫いていくうちにビー玉が回る工夫。
- ・床で作業をするうちにどんどんイメージが広がる。
- ・接着に時間がかかり、作業に支障をきたしていたので、仮止めも作業を進める上で必要。すぐに着けばもっといろいろな作業ができたのではないか。子どもたちは粘り強く固定に取り組んでいた。
- ・水墨画を扱ったのは初めてだった。筆を自由に使ってすばらしい作品が生まれた。宇宙があったり、森があったり、海があったり、空間の広がりを感じることができた。一枚目も二枚目も同じ題材で描いていた子がいたが、こだわりがあり、ひとつの世界観があった。
- ・技能と表現のかかわり、題材によって違うと思うが、題材によっては技能を先に習得したほうがいいものもある。誰もができるわけでもなく、図工が好きでもない子もいる。今日の「コロコロコログラート」は技能も必要だと思う。完成して子どもたちが遊ぶ姿が楽しみである。
- ・水墨画、手になじむもの、使いやすいものを使いたがる傾向がある。いろいろ使ってみるといふ支援も必要だと思う。
- ・デザインと作品のギャップがある。ギャップはどこにあるのか、そこを考えていく必要がある。場面はどこにあるのか、どこに持つのか吟味していかなければならない



1. 授業者より

- ・ 今回の「イメージの箱」はひとつの文字からイメージを膨らませ、色と形と素材を大切に制作するという課題です。まず色について学びます。教科書を基にして作った色に関するワークシートと配色カードを使い、色のトーンについて勉強します。その上で表現したい雰囲気、感情、色、描きたいものなどをイメージして文字を決め、箱の形や色については言葉から発想し、構想の際にスケッチをとり全体的なイメージを考えます。しかし、制作する過程で思いついた偶然性も大切にさせます。
- ・ 素材はウレタンボードとプラスチック板ですが、それぞれの素材の持つ特徴（ウレタンボード→容易性 プラスチック板→透明感）にこだわって題材作りをしました。実際に題材を進めると授業の中身は6段階（①箱の外側の形を切る②箱のデザインを考え、発砲カッターで切りぬく③箱の内側の素材に色を塗る④箱をボンドで組み立て、必要な色を塗る⑤文字をつり下げる⑥模様プレートを考え、塗って切つり下げる）の工程が同時進行する中で進められていますので、その生徒の段階に応じた指導をしていきます。本日は授業毎に提示する課題別授業目標を提示し忘れたのですが、通常通りに授業を進められ、意欲的に取り組んでいたと思います。「できた」「いいね」と確認し合いながら子ども達が作業できる様に支援できればと思います。

2. 研究協議

○文字部分と色や形の部分を複雑に組み合わせた作品なのでとても難しく思えますが、子ども達は意欲的に取り組んでいました。発砲カッターを使うことでウレタンボードがとても加工し易く楽しい素材だということがわかりました。題材の色の部分について、「トーン (PCCS)」という概念を子ども達は理解できているのか？又、どの様なプロセスで色彩について指導しているのか？

—色彩の勉強は配色カードの並びと色立体を用いて明度と彩度の組み合わせを覚えさせる。配色カードの記号と番号を使って教科書を見ながら照らし合わせて細かく確認していく等の作業をする。

○子ども達が自分の作品と向き合っており、プライドを持って制作をしている姿に感動。平面だけではなく立体の要素を取り入れた題材の組み立てや、材料の面でも100円ショップを活用する等驚かされた。色々な要素が入った盛りだくさんの課題だが、時数と進行の度合いの差等はどの様に調整しているのか？

—時数は、指導案に提示した流れで進む。進行の遅れている子どもに「自分は遅れているんだ」という意識を作り、投げ出してしまう事のない様に指導している。心配する事なく提出期限に間に合うようにさせます。

○題材の初めにまとめて全ての説明をしてイメージを持たせてからスタートするということが、段階を追って授業をして、授業毎に導入で課題を持たせる事はしないのか？

—授業の初めにその日の作業目標を提示するが、進行の度合いはそれぞれ違うので作業の遅れている子や進んでいる子にはその段階毎に個別に指導していく。

○色々な要素が詰まった題材なので、10時間の中でどのように進められていくのか不思議に思った。文字（漢字）と表現したい自分の世界をどう関連づけているのか。平面で行う色面構成から立体に移行したことで色のトーン概念が抜けてしまっている様に思えるが？

—文字とイメージの関連についてはワークシートを使って決めていく。雰囲気・感情・色等から考えたり、描きたいもののイメージから考えたりする。立体作品になったことで色使いにもこだわりが出てくる。

○中学校1年生の課題にしてはとても難しい作業。工程が多いが完成度をもっと高めてあげることも必要。ウレタンボードとプラスチック板、アクリル絵の具の素材の違いが制作する上でマイナスになる事はないか？

—課題に入る前に完成度の高い参考作品を鑑賞し学ぶので、目標意識ができる。素材の点では、アクリルガッシュは発色が良いので色使いや配色の勉強になり、ウレタンボードは扱い、欠点は今のところ見当たらない。

- ・ 素材の自由度は大きいので子ども達がそれにうまく対応していた。自分の名前を飾る課題と同じ様に自分を表現するという意味でも伸び伸び制作していた。進行度が違っても気にする事なく進めているのも勉強になる。お互いの作品を見せ合う機会があると自分の作品を高めていける。

I. 子どもの能力ベースの違いがある中でどの様な工夫をしているか？

- ・ 進行差があるのは自然な事。その流れに任せる方法もあるのかと思う。この題材に関しては考える事が沢山ある

ので、ある程度統一されたイメージやカラーを持たせた方が良いと思った。

- ・ここまでという目標を立てさせて作業。作業の遅れている子に合わせて時間を組むのは難しい。
- ・今回の題材では2～3時間の差がついてしまうという事だが、別の題材を取り入れたり、漢字だけではなくローマ字も選択肢に入れたりなどして、より完成度の高い作品にするために工程を増やしてあげることで時間差を少なくできる。
- ・昼休みと放課後、美術室を開放して「ここまで」という所まで作業を進ませている。作業をする場所や時間にゆとりを持たせ、作業の早い子にはより良いものを作れるような仕掛けを用意する。

II 作品作りの中で仕組む部分と自由にさせる部分を区別どのようにしているか？

- ・レタリングの明朝体の特徴と色彩については枠付けの部分。イメージを想定する部分は自由に発想させる。
- ・今回の題材は箱の形は自由に作らせているということだが、「四角」という枠組みがあった方が良かったのではないかとそれぞれの段階で何を指導したいのか明確に押さえる事が必要。
- ・小学校の題材で立体や工作がよくあるが、「工作＝自由」に作るという概念が定着しつつある。従来立体作品や工作にはゴールがあって段階的に進めた方が良いと思うが、最近はその考えも変わり計画づけするとそれ以上の物ができないという見方もある。自由に作るからこそできる発想もあるので、概念を押し付けるよりも色々試してチャレンジさせる事も立体作品や工作を作る上で必要なものでしょう。教える事ばかりに重点を置くよりも「学ばせる＝許す」という許容範囲をどれくらい持っているのかである。
- ・「イメージの箱」は始めに意図した物から違う方向になる場合もあると思うが、その題材そのものが持っている素敵さがある。又特に枠からはみ出ている作品はないようですが、子ども達は「このボードでこの箱を作って・・・」という先生の枠づけの中ではみ出ず制作している。
- ・制作が遅れている子ども達にスペースを開放して作業させる事も良い。他の教科と同じ様に宿題も出せば補修をさせても良い。制作をする時の制約については、素材があつて物を作る時には条件が必ず必要。その条件の中でどう発想し、自分の得意な事、関心のある事を膨らませていく。色々なものができてくるとは思うが、子どもの能力は引き出せるのではないかと技術科ではコンピューターが多く導入されているので、形を工夫して物を作る様な課題はとても貴重になってきている。
- ・一つの形、課題が出来上がって観点別の評価をして終わりではなくて、今後にどの様に結びつけていくのかという事が大切なこと。今回の題材はかなりの時数を必要とするので、複合的な課題にしていかなければならないという面でもこの課題は要素が沢山あり良いと思う。

3. まとめ

- ・今日の大会に合わせて授業の組み立て方の相談などをして進めてきたが、1番面白いと思うのは100円ショップで気軽に購入できる素材を使用している点。このボードのセットには色々な色が初めから入っていて色が選べないという事だが、この問題はこの題材を制作していく上での一つの条件という押さえで進めていくしかない。
- ・制作の進度は色々だが、これはどの授業にもある問題。
- ・評価と進度の関係では、例えば2・3年生で週1時間のペースである程度の題材を与えなければならない場合、複数の課題を同時進行させる等の工夫もあつて良いと思う。2つ同時に課題を与える事で計画的に作業を進めることもある。この際評価はそれぞれの作業の様子で途中評価はできる。また、評価については子ども達と話し合っ付けていく方向でも指導できる。同じ年齢で同じ能力の子ども達の集団であるという考えは持たないでその子のペースや技能に応じて主体的に物作りをさせていくと良い。



課題別検討 「かんがえる・くふうする」部会

助言者 森 實 祐 里 森 富 輝 司会者 加 藤 和 江 記録者 阿 部 孝 彦

提言者 森 川 沙 織「超現実絵巻」

岩 崎 愛 彦「『魅力的な題材』から『魅力的でかんがえる活動』へ」

1. 提言者より

(1)「超現実絵巻」

- ・今まで触れてきた多くの表現方法の中で写実的な絵画の分野などで苦手意識を持つ子が多い。
- ・今までの美術のまとめとして、自分にしかない価値を作り出し、表現の楽しさを体験できる活動の場として設定した。
- ・生涯にわたって美術を愛好していくきっかけ
- ・最後の鑑賞では、名前を見ずに、巻いたものを右側から横スクロールで鑑賞した。その結果、予想以上に盛り上がり、美術が苦手だと感じていた子にとっては、苦手意識を克服することができた。

(2)「『魅力的な題材』から『魅力的でかんがえる活動』へ」

- ・印象派の作品を作家ごとに一枚ずつ見せても、作品の特長がつかみづらく誰の作品かわからないが、同じモチーフの作品を並べて見せることによって、筆づかいの違いなどに気づき、「だれっばいね」といえるようになってくる。大切なことは見る基準をつけてやることで、それが「鑑賞」に帰ってくる表現活動となる。
- ・「だれの作品でしょうクイズ」を行い、「この作品は、こんな特徴があるから～の作品だ」と言えるようになった。
- ・グループエンカウンターのひとつの「テレパシーゲーム」を使って、作家のイメージを伝え合い、確認することができた。
- ・鑑賞後、模写に取り組み、子どもが模写した作品と本物の作品を提示し、どちらが本物かを当てるクイズをした。
- ・ピカソの「バラ色の時代」「青の時代」などの時代風に、もしゲルニカが「バラ色の時代の作風だったら」「青の時代の作風だったら」「じゃあ白と黒で描かれた作品では」などと比較しあいながら読み取り、違いを感じることで、作品にこめられた思いや事件などを深く考え、話し合っていくことができた。
- ・みつけてビンゴ…小学校3年生。出来上がった作品から気づいたことを色、形、表しているものなどから25個上げてビンゴカードに記入し、ビンゴ大会を行った。子どもたちは注意深く作品を鑑賞し、深く考えることができた。しかし、25個見つけるとするのは子どもたちにとっては難しかったようだ。
- ・なりきり発表会…小学校。木版画の制作後、友達作品について、作者になりきり、よかったことや工夫したことを発表しあった。本当の作者が、自分の思いが作品を通して、他者に伝わっていることに気づいたり、自分では気づかなかったことを他者が認めてくれたりしたことが、作者本人にとって満足のいく発表会となっていた。
- ・教師がどんな仕掛けを考えるか、工夫するか。…教師も「かんがえる・くふうする」。
- ・表現で苦勞する→いろいろな鑑賞で学ぶ→表現活動に生かす→苦勞したことを鑑賞で学ぶ…表現と鑑賞を相互に働きかける。
- ・鑑賞を通して知識の引き出しを増やしてやる。

2. 研究協議

(1)「超現実的絵巻」

○「かんがえる・くふうする」をどのように深めていくのか

- ・なかなか思い切った教材選びができない。
- ・普通でない形の画用紙を使って面白い。
- ・乾きにくく、大きな画用紙だったので、乾かす際に苦勞した。巻物の紐を壁に付けた釘にかけて乾かした。【授業者より】

○考えたり工夫したりできるようにした支援とはどのようなものか。

- ・「見る人」「つくっている人」が楽しい作品。右側から見ていったときに驚ける作品。

- ・「くふうしなさい」と言う言葉を使わないで、指導・支援している。
- ・「～させる」支援から「～したくなる」支援の仕方を心がけている。

○なぜ『絵巻物』なのか

- ・コンパクトになる。一枚の絵に時間的な広がりや空間的な広がりを感じさせることができる。
- ・鑑賞時、横スクロールで、アニメーション的な楽しみがある。
- ・ありえないものが出来上がってくることで、作者の内面が表れ、「～したい」と言う欲求から描写力の上達につながっている。

(2)『魅力的な題材』から『魅力的でかんがえる活動』へ

- ・どの題材も子どもたちの知的好奇心をくすぐる内容になっている。
- ・教師側が伝えたいと思っていることを言ってしまうと、子どもたちの声がなくなってしまう。フリートークの中から伝えたいことをピックアップする。
- ・作品を漠然と「良い絵」として見るのではなく、筆のタッチなど視点をはっきりさせて鑑賞させることが大切。
- ・鑑賞を通して、知に返り、また感じることに戻してあげることが大切。作品を「見る」こと自体に学びがある。
- ・なりきり発表会では、作者になりきることで、なりきられた子どももうれしいし、なりきれた自分もうれしい。

3. まとめ

(1)「超現実的絵巻」

- ・生徒が困っているところを見逃さずピンポイントで指導している様子が見られる。
- ・すべて教師側で指導してしまうのではなく、生徒に考える余地を残した指導を行っている。
- ・この教材は生徒の苦手意識を軽減させて意欲的に制作活動に取り組むことができる。
- ・絵巻物のよさ（価値）に気づかせることができる。
- ・素材を見たときの子どもの驚きは制作意欲につながっている。
- ・鑑賞の仕方にも工夫が感じられ、子どもたちに達成感や喜びを感じさせることができている。
- ・作品の面積的には、四つ切以上の大きさになっているが、子どもたちは最後まで集中してよく作り上げている。
- ・西洋美術中心の教材が多い中、対象のみを描くなど、日本の美術を体験・経験させ、自分たちの伝統美術を知ることが大切。

(2)『魅力的な題材』から『魅力的で考える活動』へ

- ・美術館へ行っての鑑賞となるとちょっと敷居が高いように感じられるが、このような提示をしながらの鑑賞であれば行いやすい。
- ・「印象派」の鑑賞はゲーム感覚で楽しい授業であるが、筆のタッチなど視点を明らかにしながらしっかりと「知へ返す」内容になっている。
- ・作家それぞれの「らしさ」を味わいながら模写を行うことで、他者の作品を通して自分の作品も上手になる。
- ・作品を見たときに子どもがどのように感じるのかを大切にし、感じたことを表現活動につなげていくことが大切
- ・鑑賞した際の意見交換の仕方や、どのような切り口で鑑賞を進めていけばいいのか、良いヒントをもらった
- ・ピカソの作品は子どもにとってはちょっと難しかったように感じる。それより「印象派」での取り組みのほうが良い。
- ・絵を見る際に、顔を近づけなくても、パソコンに取り込んだ絵を「ズーム」していけばいいのは指導しやすい。
- ・「なりきり発表会」で見られるように、作者が考えたり、意図したりしていなかったことを周りで見つけてあげてその成果を確認しあうことも鑑賞では大切なこと。





編 集 後 記

『「できた!」「いいね!」喜びが息づく時間を求めて』を釧路大会の研究テーマに、大会の成功を目指して取り組んで参りました。大会当日は全道各地から多くの先生方の参加を得て、研究交流を深めることができました。

参加者皆様の熱意と交流の趣旨をここにまとめ、大会集録といたします。これからも、造形教育の発展を願って日々の教育実践に取り組んでいきたいと考えます。

第57回 全道造形教育研究大会釧路大会 大会集録

発 行 者 大会実行委員長 宝 輪 勝 己

大会事務局 釧路北陽高等学校内 高 橋 潤

表 紙 「細岡展望台からの釧路湿原」

発 行 年 月 2007年11月

印 刷 (株) 藤プリント

釧路市栄町10番3号 (0154)22-9311